

2. 奈良女子大学編

2. 1 教育（地方創生を担う人材育成）について

総 論

奈良女子大学では、「奈良を知る・奈良で就職」をテーマに盛り込んだ「『奈良』女子大学入門」ならびに「なら学」を地方創生理解科目、「なら学+（プラス）」をPBL型科目とする初年次における地域志向教育を確立し、その上にPBL型科目による実践教育を通じて専門性を身に付ける教育プログラムを体系化するとともに、「地域志向科目」の全学必修化を実現した。「『奈良』女子大学入門」（平成30年度より開講）、「なら学+（プラス）」

（平成29年度より開講）ではCOC+事業協働機関から、奈良の伝統産業、基幹産業、現代産業に携わる様々な専門家・実務家を招聘した講義を展開した。同時に整備が完了したサテライト施設を活用したPBL型科目を開講し、地域の課題発見と課題解決に向けた実践教育を展開した。さらに、起業マインドの醸成を図り、地域での新たな雇用創出に役立てるためアントレプレナー科目としてキャリア教育科目において、キャリアデザイン・ゼミナールC(5)「『ビジネスプラン』の作り方～アイデアだけでは終わらせない～」を今年度開講した。

1 地域志向科目の開講状況

（1）地域志向科目の受講推移（科目数と受講者数）

平成 28 年度は 29 科目を開講し 925 人が受講、平成 29 年度は 29 科目を開講し 961 人が受講、平成 30 年度は 32 科目を開講し 1,810 人が受講、令和元年度は 19 科目を開講し 1,424 人が受講した（重複受講者を含む）。

全学部生に対する地域志向科目の受講者（入学後に 1 科目でも受講したことのある実人数）は、平成 28 年度 2,069 人に対して 605 人（受講率 29.2%）、平成 29 年度 2,063 人に対して 970 人（受講率 47.0%）、平成 30 年度 2,085 人に対して 1,505 人（受講率 72.2%）、令和元年度は 2,088 人に対して 1,881 人（受講率 90.1%）と順調に増加している。なお、地域志向科目の必修化により令和 4 年度には受講率 100%に達する見込みである。

○地域志向科目の推移状況（科目数、受講者数）

		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
開講科目数		29 科目	29 科目	32 科目	19 科目
内訳	地域創生科目	15 科目	13 科目	11 科目	7 科目
	PBL 科目	14 科目	16 科目	21 科目	12 科目
受講者数		925 人	961 人	1,810 人	1,424 人
備考		キャリアデザイン・ゼミナール（日本一の奈良を知る）（新設）	「なら学+（プラス）」（新設）	「奈良」女子大学入門（新設）	地域志向科目の必修化・体系化の完了

○地域志向科目の受講者と受講率の推移

受講者数と受講率 (重複受講者を除く)		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
H28 年生	入学者数 506 人	236 人 (47%)	298 人 (59%)	391 人 (77%)	398 人 (79%)
H29 年生	入学者数 515 人		277 人 (54%)	445 人 (86%)	470 人 (91%)
H30 年生	入学者数 520 人			435 人 (84%)	496 人 (95%)
R1 年生	入学者数 526 人				510 人 (97%)

(2) 令和元年度の開講科目と受講者数(令和元年度)

奈良女子大学における地域志向科目は、文学部、理学部、生活環境学部の各学部規程に明確に位置づけ、令和元年度以降の入学生が、卒業するまでに指定された科目のいずれか1科目以上の受講を必修化している。

卒業要件として指定された今年度の地域志向科目は以下の19科目である。

科目群	区分 (※1)	開講期 (※2)	授業科目名	担当教員	受講者数 (人)
教養教育科目	地創	前期	奈良女子大学入門	小川・成瀬	604
	PBL	前期	パサージュ(32A)	宮路	17
	PBL	前期	パサージュ(32B)	宮路	12
	PBL	前期	パサージュ(39A)	西村・浅田	12
	地創	前期	なら学	寺岡 他	133
	PBL	後期	なら学+ (プラス)	成瀬・前川	217
	地創	後期	環太平洋くろしお文化論	西谷地 他	114
文学部 専門教育科目	地創	後期	なら学概論 B	寺岡	37
	地創	前期	文化人類学特殊研究	武藤	85
	PBL	前期	なら学フィールドワーク実習	寺岡	4
	PBL	不定期	コミュニティ・リサーチ	水垣・寺岡・ 佐藤	15
	PBL	不定期	コミュニティ・アクション	水垣・寺岡・ 佐藤	13
	地創	後期	なら学演習	武藤・寺岡	17
	地創	後期	地域探求実践演習	高田・吉田	5

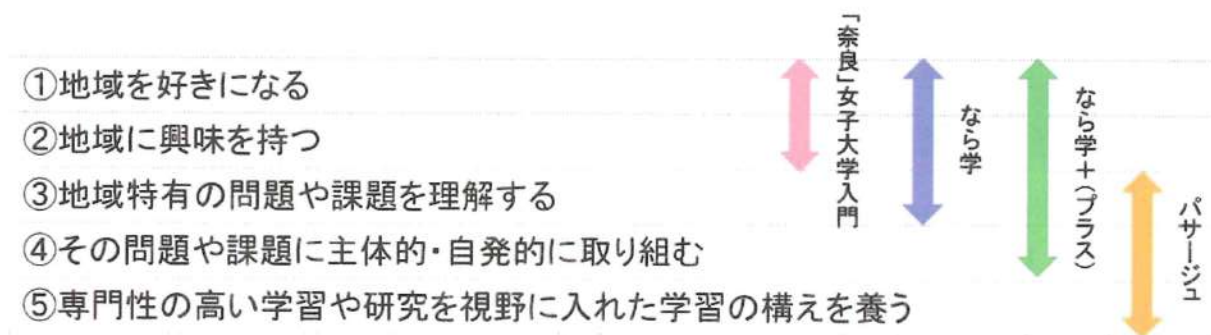
理学部 専門教育科目	PBL	不定期	サイエンス・オープンラボⅠ (A～E)	小林 他	56
	PBL	不定期	サイエンス・オープンラボⅡ (A～E)	小林 他	18
	PBL	前期	森林生物学野外実習	井田 他	12
	PBL	前期	河川生物学野外実習	酒井 他	12
生活環境学部 専門教育科目	PBL	後期	地域居住学	中山	41
合計					1,424

※1：地創 地域創生科目

PBL (Problem /Project-Based Learning：課題解決型学習)

※2：不定期 開講時期が定まっていない科目

○教養教育科目における科目配置と学びの変化



2 授業報告

A. 教養教育科目

(1)「奈良」女子大学入門

教養教育科目「『奈良』女子大学入門」は、特に新入生向けの地域志向科目で、奈良女子大学で学び、安全で充実したキャンパスライフを送るために必要不可欠な内容をオムニバス形式で講義する授業で、Ⅰ.キャンパスライフの充実、Ⅱ.奈良で暮らす、Ⅲ.奈良女子大学で学ぶ、Ⅳ.奈良を知る・奈良で就職の4つテーマで構成されている。

学長、学部長からのメッセージのほか、本学の歴史や男女共同参画社会推進のための取り組み、奈良県の経済や県内企業との共同研究を紹介し、キャリアデザインを奈良からスタートする授業で1回生を中心に604人が受講した。

特に、教育テーマⅣ「奈良を知る・奈良で就職」においては、下記の内容で、地元定着を志向した講義を展開、受講学生の奈良県や地域への興味関心の醸成に役立てた。

教育テーマⅣ	内容	担当者
「奈良を知る・奈良で就職」	COC+事業について	やまと共創郷育センター
	奈良県の経済	(一財)南都経済研究所
	奈良県の政策や動向	奈良県雇用政策課・奈良の魅力向上課
	奈良県企業との共同研究	理事(研究・情報担当)、本学教員
	奈良で就職①	内閣府参事官・ 学生生活課 就職係キャリアカウンセラー
	奈良で就職②	奈良経済同友会会員企業2社



授業の様子

(2) なら学

教養教育科目「なら学」は、「奈良」をキーワードにして、奈良女子大学の多様な学びに触れ・知る「入門」となる授業である。奈良女子大学教授陣によってリレー講義形式で行われ、今年度は133人が受講した。

奈良について多面的な知的関心や学問的に考える能力を養うことを目的にしている。

令和元年度 なら学授業スケジュール

回	授業内容	講師
1	イントロダクション・奈良県の概要	寺岡伸悟
2	奈良の祭	武藤康弘
3	奈良の産業・企業	やまと共創郷育センター
4	万葉論	西村さとみ
5	世界遺産建築の見方	上野邦一
6	奈良県の自然地理	浅田晴久
7	奈良公園	佐藤宏明
8	東大寺論	西谷地晴美
9	奈良の文化イベント：燈花会と映画祭	ゲスト（中野聖子）
10	都城論	舘野和己
11	奈良のアートまちづくり	山崎明子
12	吉野社会論	水垣源太郎
13	近代奈良の娯楽・郊外文化	内田忠賢
14	地図と奈良	西村雄一郎
15	テスト	寺岡伸悟



「大学的奈良ガイド」（なら学プロジェクト編、2009年）

(3) なら学+（プラス）

教養教育科目「なら学+（プラス）」は、事業協働機関（COC+参加校、県・市町村ならびに県内民間企業）から、実務に携わる外部専門家、実務家を迎え、多彩なゲスト講師によるリレー講義で構成した。奈良の伝統産業、奈良の基幹産業（林業・農業・観光・繊維・製薬）などの魅力や課題に身近に触れながら、課題発見、問題解決、提案力を養い、「生きた知」を身に付けた未来の地域リーダーを育成する科目として展開してきたが、平成30年度から1コマの授業の中で行政、民間双方からゲスト講師を招き、地域への理解を深め、地域の課題等について多面的・多角面でのモノの見方をできるように授業内容を見直した。

様々な視点から奈良の課題や取り組みについて学ぶことによって、奈良はもちろんのこと、地元に戻っても活躍できる未来の地域リーダーの育成を目指している。今年度は全学部から217人の学生が受講した。講義スケジュールは下記の通りで、授業冒頭には、前回授業の受講生感想と講師からのコメントをもとに振り返りを行い、奈良の課題を様々な他者から学ぶ授業構成として展開し、最終課題レポート「奈良への提案」を課した。

令和元年度 なら学+（プラス）授業スケジュール

回	授業内容	ゲスト講師
1	ガイダンス	担当教員・やまと共創郷育センター
2	“なら”でのコンテンツツーリズム ～観光のニーズとその課題～	奈良県立大学 (一社)吉野ビジターズビューロー
3	観光産業への理解を深め、課題を探る	(公社)奈良市観光協会 (一社)飛鳥観光協会
4	女性の多様な生き方・働き方を考える	奈良県福祉医療部こども・女性局女性活躍推進課 チアフル(株)
5	伝統・地場産業（製薬）への理解を深め、課題を探る	奈良県薬事研究センター 佐藤薬品工業(株)
6	奈良の食育・栄養を考える	(株)池利・名阪食品(株)
7	奈良の特産品（柿）を通じたマーケティングを考える	奈良県農林部マーケティング課 (株)マックス
8	伝統産業（林業）への理解を深め、課題を探る	奈良県森林技術センター (株)イムラ
9	地場産業への理解を深め、課題を探る	河村繊維(株)・国広産業(株)
10	奈良の現代産業に聞く	(株)ATOOUN・DMG森精機(株)
11	地方自治体の役割・課題を探る	奈良県地域振興部・下市町総務課
12	生活福祉を考える	奈良佐保短期大学生活未来科 奈良県社会福祉協議会
13	これからの地域社会と科学・技術の関係を考える	奈良工業高等専門学校
14	「課題発見・問題解決・提案力を養う」その1 昨年度提案プラン紹介とプランニング講演	担当教員・(一財)南都経済研究所

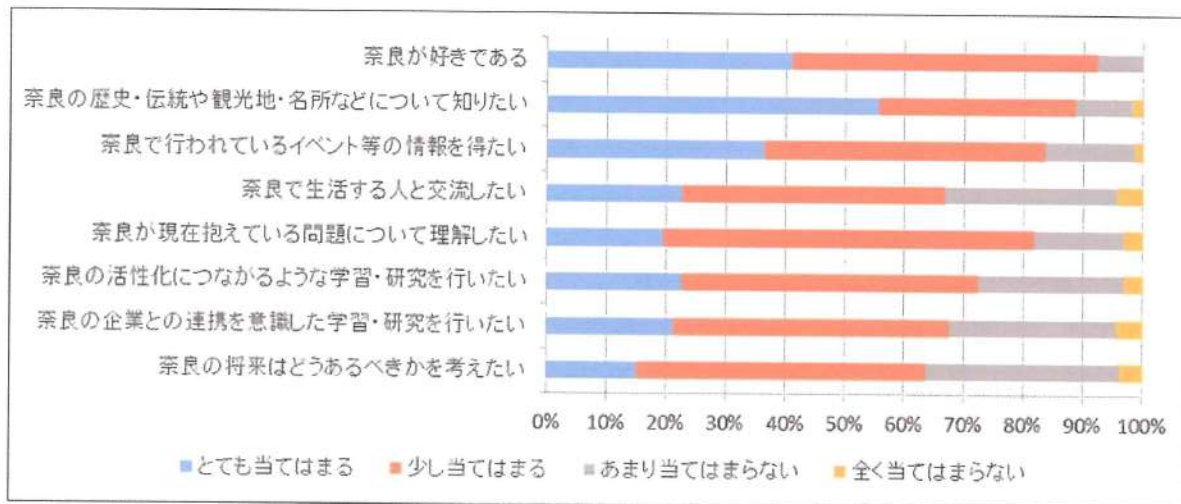
15	「課題発見・問題解決・提案力を養う」その2 学生による地域活動事例発表と「奈良への提案」の発展応用ならびに振り返りレポート	担当教員・やまと共創郷育センター
----	--	------------------



授業の様子

1) 受講動機 (有効回答数は 160 人)

ガイダンス時に、奈良への興味・関心などを尋ねた。多くの学生が「奈良が好きである」、「奈良について知りたい」、「奈良が抱えている問題について理解したい」と回答した。



2) 最終課題レポート 「奈良への提案」

学生からの提案のうち、一次審査を通過した下記の 22 プランについて、令和 2 年 1 月 20 日 (月) に大学内で開催された奈良経済同友会との交流・懇談会にてプランの一部を紹介し、県内企業関係者からコメントを得た。また提案については、今後奈良県ならびに一般財団法人南都経済研究所による審査を行い、奈良の歴史伝統観光産業といった礎をさらに発展させる『『なら』いにしえ賞』と、新たな奈良の未来を創生する『『なら』みらい賞』を選出し、表彰する予定である。

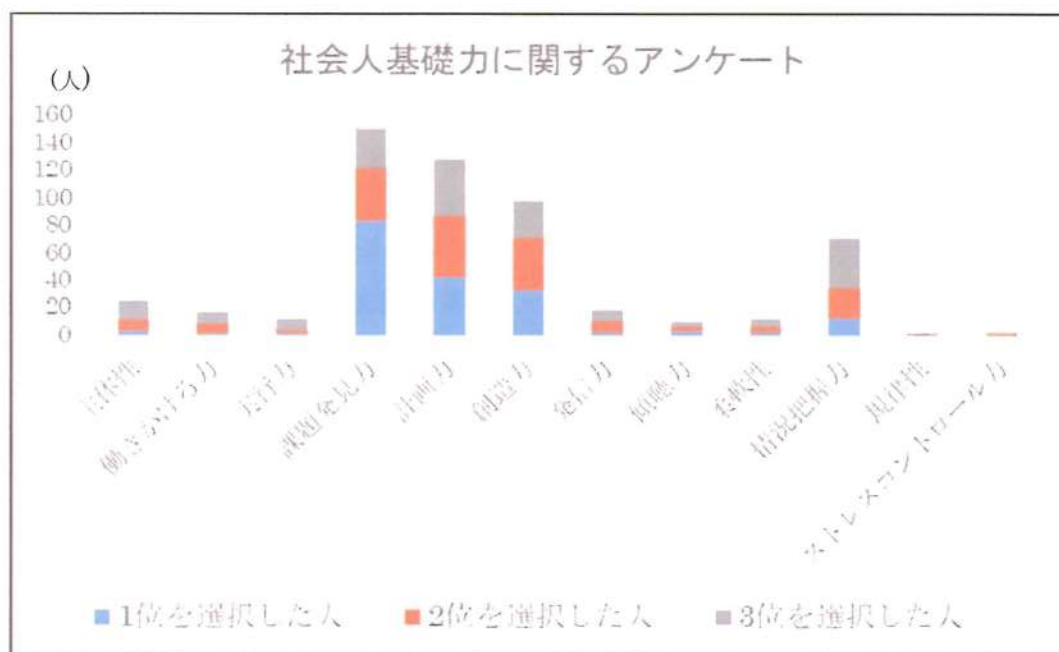
ジャンル	奈良への提案プラン名
観光	奈良の滞在時間延長を目指した宿泊客増加プラン
観光	何度も来たいと思える奈良にするには
観光	ものづくり体験を通して奈良の魅力を全国に発信しよう！
観光	昼の街、奈良！～奈良公園セントラルパーク化計画～
観光	「奈良」に「シカ」ない夜を！～宿泊率アップ大作戦～
観光	「武」で輝く奈良
観光	なむあみだ仏っ！お参り奈良ツアー
観光	修学旅行の続きを、奈良で。
観光	バラエティーのある宿泊施設へ
観光	移動中に学ぶ、シカへの餌やり
観光	Let's play LARP (Live Action Role-Playing Game) in Nara！！
観光	デートにピッタリドキドキなら旅
社会生活	奈良県の企業を身近に感じよう
社会生活	都会っ子の感性や自立精神を豊かに！山村留学してみよう！！
社会生活	若者振興プログラム ～若者が住みやすい奈良市にするために～

社会生活	奈良をゴミ0の町にする、ごみ回収プロジェクト
社会生活	未来の奈良で暮らし、奈良で生きるためのテレワーク
女性活躍	働きたいけど働けない・・・とは言わせない！ママの就業応援システム
特産(繊維)	あおぞら靴下屋さん
特産(薬)	奈良にしかない薬局、心鹿（ここしか）堂
農林業	大和野菜を全国へ！野菜お届けネット宅配便
その他	奈良へのふるさと納税で思い出作り！体験型プラン

3) 社会人基礎力に関するアンケートの実施

(有効回答数は 182 人)

「奈良への提案」課題によって、12 の要素から構成される社会人基礎力のどの能力を身に付けることに役立ったかについて、役立ったと思う順に 1 位から 3 位まで回答させた。社会人基礎力の 12 の能力要素のうち、考え抜く力（課題発見力、計画力、創造力）を養うのに役立ったとする回答が上位 3 位を占めた。



学生は、なら学+（プラス）の授業内容ならびに最終課題レポート「奈良への提案」を通じて社会人基礎力の構成要素である「疑問を持ち、考え抜く力」（課題発見力・計画力・創造力）を身に付けたと自己評価している。特に「課題発見力」を養うのに役立ったと回答した学生は 182 人中 150 人であり、全体の 82.4%を占めた。

(4) パサージュ

1) パサージュ 32AB「遺跡から奈良を学ぶ」 (担当：宮路 淳子)

a) 授業実施日ならびに概要

【32A】

4月19日	事前レクチャー、グループ分け
4月26日	フィールドワーク (テーマ：万葉) 万葉歌碑 佐保川沿い～狭岡神社
5月10日	フィールドワーク (テーマ：中世) 多聞城・転害門・正倉院
5月17日	フィールドワーク (テーマ：近世・近代) 奈良奉行所・北山十八間戸・旧奈良監獄所・雲居坂・轟橋・知事公舎
5月24日	グループワーク 1 ・グループディスカッション+資料の作成 (ラーニングコモンズ) ・フィールドワーク
5月31日	グループワーク 2 ・グループディスカッション+資料の作成 (ラーニングコモンズ)
6月7日	グループごとに発表 (15分×4) と講評 (5分×4) (S123)

【32B】

6月14日	事前レクチャー、グループ分け
6月21日	フィールドワーク (テーマ：万葉) 万葉歌碑 佐保川沿い～狭岡神社
6月28日	フィールドワーク (テーマ：中世) 多聞城・転害門・正倉院
7月5日	フィールドワーク (テーマ：近世・近代) 奈良奉行所・北山十八間戸・旧奈良監獄所・雲居坂・轟橋・知事公舎
7月12日	グループワーク 1 ・グループディスカッション+資料の作成 (ラーニングコモンズ) ・フィールドワーク
7月19日	グループワーク 2 ・グループディスカッション+資料の作成 (ラーニングコモンズ)
7月26日	グループごとに発表 (15～20分×3) と講評 (5分×3) (S123)

b) 授業成果 (担当教員からのコメント)

1 回生前期でまだ奈良自体が初めてと言う学生も多く、フィールドワークをしながら大学周辺や奈良への理解を深めてくれたと感じた。いずれも人数が 10 人をこえていたため、フィールドワークで十分な情報伝達ができなかったかもしれず、上回生のサポートがあったらうれしいと思った。

2)「パサージュ (39A)」 (担当：西村 雄一郎・浅田 晴久)

a) 授業実施日

第1回	合同オリエンテーション
第2回 (4月16日)	自己紹介、授業の目的の説明、今後の予定の確認
第3回 (5月7日)	十津川村について調べてきた項目の発表、現地訪問に関する諸注意
第4回～第5回 (5月18日)	十津川村現地訪問 1日目
第6回～第7回 (5月19日)	十津川村現地訪問 2日目
第8回 (6月4日)	現地訪問のまとめ

b) 授業の概略

本授業における学びの特徴は、「実際に、現地に足を運んで、自分の目で見て確かめる」ことである。今回の現地訪問先として、これまで授業や教員の調査でゆかりのある奈良県吉野郡十津川村を選定し、1泊2日で行った。1回生12人（文学部2人、理学部3人、生活環境学部7人）とTA学生1人、教員2人で行った。

現地訪問1日目は、8時30分に大学を出発し、レンタカー2台で十津川村に向かった。谷瀬の吊り橋の見学、道の駅十津川郷で昼食をとった後、十津川村歴史民俗資料館において館長代理の方より村の概要と歴史について説明を受けた。その後、田戸地区に移動し、瀬ホテルにて経営者よりUターンしてきた住民の現状について、また、瀬峡の川船観光経営者より、観光客の動向について説明を受けた。

現地訪問2日目は、武蔵地区の教育資料館を見学した後、地域おこし協力隊の女性、教育委員会に勤務している学芸員の女性に、それぞれ村の生活について話をうかがった。雨天のため役場会議室を借りて昼食をとった後、世界遺産小辺路沿いにある果無集落、平谷地区地域交流センターいこら、木工品の製造・展示・販売施設 KIRIDAS など見学し、18時30分に大学に到着・解散した。

c) 受講学生の感想（学生レポートより抜粋）

- ・十津川村のような田舎に滞在するという事は、私にとってほぼ初めての経験であった。さまざまなところに滞在した二日間を通して、大自然に囲まれている十津川村だからこそ感じる魅力がある一方で、住民や村の関係者の方のお話を、実際に聞いてみてわかる十津川村の現状があるということも実感した。十津川村に限らず、全国にはこういった地域が多く存在し、これからますます増えていくと考えられる。そこで、私たちに何ができるのか、どうしたら皆にとってより良い暮らし、居心地の良いところができるのかを考えるきっかけにもなったので、もっとさまざまな視点から、ものを捉えられるよう、学びを深めていきたい。
- ・十津川村の林業を通して地域で衰退していく産業の実態や林業という産業が抱える問題に触れることができた。また、村人の村に対する考え方の多様性にふれて、自分が住む土地に対する愛着やその土地に住んでいる／生まれたという個性にたいする認識がそれぞれの立場によって違うことがわかった。今回話を聞いたのは村人の中でも外向

型の方に偏っていたので、そのほかの方の考えも知りたいと思った。

- ・十津川村に行くまではわからなかったけれど、結構人工林が多くて、国道などの真新しい道路が作られていて、観光客用に新しく設置されたであろうトイレがあり、十津川ビデオというものが存在して…たくさんの発見があり、自分の住んでいるところとの差にとっても驚かされた。私は今まで、吊り橋やダム、林業、災害、村、それらのつながりなんて考えたこともなかったけれど、このパサージュを通して、こんなにもつながりがあるのだということを実感することができた。

d) 授業成果（担当教員からのコメント）

担当者の専門分野（地理学、地域研究）では、とにかく現場を訪問して自分の目で観察するというのが、研究の基本になる。文献講読や統計資料分析などの研究手法だけでなく、フィールドワークも重要な手法となりうることを、1回生の段階から理解してもらえよう、時間をかけて授業内容を準備した。授業に参加するまで、受講生はほとんど山間地域に関する知識・経験をもっていなかったが、今回は、比較的年齢の近い女性（地域おこし協力隊の20代女性）、立場が近い住民（都市部の大学を卒業してUターンした起業家）に協力してもらえたことができたので、初めて訪問する過疎地域についての話でも、よく理解することができたと思われる。また、現地訪問経験のある4回生にTAとして同行してもらい、受講生の取りまとめ役を務めてもらったことも、授業を円滑に進めることにつながった。



瀬ホテルの前で写真を撮る受講生



地域おこし協力隊から話を伺う

B. 専門教育科目

(1) 「なら学フィールドワーク実習」 (担当：寺岡 伸悟)

a) 授業の実施日

令和元年度前期開講

b) 授業の概要

「なら学フィールドワーク実習」は、文学部専門教育科目に位置付けられる科目である。2019年度の「なら学フィールドワーク実習」は、奈良の自治体など公的な組織・団体取材することがテーマとなった。企業とはまた異なり、公的な性格をもつ公共団体は、奈良やそれが事業対象とする奈良県内の地域をどのように捉えているのか。またそこで働くことの魅力は。こうしたことを考えるために授業は始まった。

まず、授業のガイダンスをかねて、奈良市役所に勤務する本学 OG にお話し、大学のある奈良市に就職した経緯、ふだんの仕事、課題、魅力などについて話をしてもらった。

その後、受講生の興味に応じて、訪問調査対象先が、奈良県警察、奈良市観光協会、中和の自治体（大和高田市役所、葛城市役所）、南部の自治体（吉野町、奈良県地域振興部南部東部振興課）と決定した。それぞれを別の受講生が担当し、実際に対象先を訪問して、仕事・課題・魅力、そして奈良で公的な仕事に就くこと、をインタビューや資料調査した。一部の学生は、帰省ついでに東京の奈良まほろば館にも調査に赴いてくれた。

受講生の高い問題意識のおかげで、普段ではなかなか調査対象に選定されにくい、警察署、中和の自治体の観光振興、移住に取り組む南部自治体といった組織を学生が積極的に選んだことは、COC+事業が学内で深まってきたことを印象づけることがらであったと思われる。

成果は小冊子『奈良と人と私—まちづくりの一員として奈良を見る—』としてまとめ発刊した。また受講生のなかから県内就職者がでたこともあわせて記しておきたい。

以下にその冊子の「編集後記」から学生の感想を抜き出しておきたい。

c) 受講生の感想

Aさん

今回県、市、住民という3つの代表の方から、奈良の観光という同じテーマについてご意見をうかがうことができました。部外者であった私にとっては非常に興味深かったり、意外だったりする点が数多く存在しました。奈良に住んで、これからの観光を考えていきたいと思っている私にはかけがえのない経験でした。今回調査した内容を踏まえて、今後の課題などを自分なりに考えていこうと思っています。最後に、今回ご意見を聞かせてくださった皆様に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

Bさん

最初に「行政に取材に行く」と授業で説明を受けたときは、難しそうだと身構えていました。しかし実際の役所の方々は非常に親切で、拙い質問に対して真摯に、丁寧に答えてくださいました。「観光」と一口に言ってもそのアプローチ方法は様々で、芸術で魅

せたり、特産品で魅せたり、暮らし方で魅せたり。そして発信方法も、内容によって工夫されていることを知り、奈良だけではなく、他の地域の観光事業にも興味を持ちました。今回は執筆期間に偶然東京に行く機会があり、奈良まほろば館の方にお話を伺うことができ、他の取材内容とはひと味違った、この冊子の中でもいいスパイスになっているのではないかな、と思っています。今回取材にご協力くださった皆さまに、心より感謝いたします。

Cさん

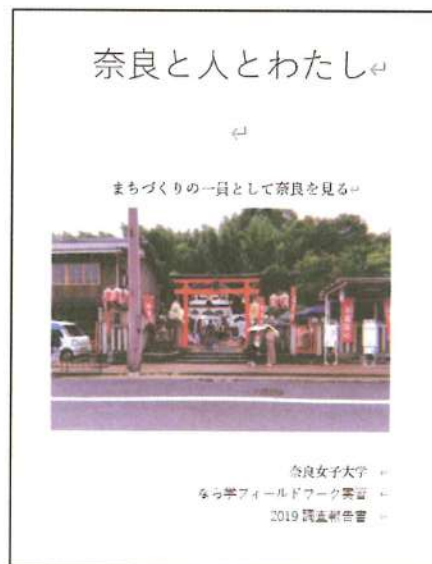
今回の調査を通して、奥大和地域の過疎の現状とその現状を改善する取り組みについて知ることが出来ました。より多くの人に奥大和を知ってもらうために様々な企画を考え、イベントを開催している方々の発想力と行動力は奥大和に対する熱意に溢れており、どのようなことをされているのか知れば知るほど、「私だったらそのような発想は思い浮かべることができない、本当に凄いなあ」という思いが強くなりました。私は奥大和地域の出身でも奈良県の出身でもないですが、実際に県内各地に赴いてみて、奥大和ひいては奈良県全体がとても素敵な場所だと確信を持って言えるので、この冊子を読んで下さった方にも奈良県内の色々な場所に行ってみてほしいと思っています。最後になりましたが、私の調査に協力して下さった方々に厚くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

Dさん

取材の日取りを決めたり、電話をかけたり、自分で話を聞きに行くなど、初めてのことばかりで緊張しましたがすべて貴重な体験になりました。警察は堅実で少々近寄りたいたいイメージがあると最初考えていましたが、取材を重ねるたびに、だんだん当初の自分の考え自体が変わっていくのが面白いように感じました。警察の活動についてはテレビや本で知ることができるかもしれないけれど、やはり他の人の目を通して伝えられていることだと思います。警察に限らず、真の意味で知るというのは自身が実際に見て感じたことを、他の人が持つイメージや考えとすり合わせていくなかで感じる疑問や、合致点について考え、もう一度話を聞いたり調べたりしていくことが近道なのかもしれない、とこの取材を通して感じました。

d) 授業の成果（担当教員からのコメント）

小冊子『奈良と人と私—まちづくりの一員として奈良を見る—』を発刊した。



(2) 「コミュニティ・リサーチ」：地域コミュニティの課題把握法

(担当：水垣 源太郎・佐藤 克成・寺岡 伸悟)

a) 授業実施日

第1回 (4月20日)	アイスブレイキング、講義(有江正太氏・空き家コンシェルジュ代表)、調査方法論と学外実習準備
第2回 (5月25日～26日)	学外実習Ⅰ(奈良県下市町) 第一日：現地調査(広橋区清水)、 第二日：農山村生活体験(摘蕾体験)、下市町巡検
第3回	グループ別活動(日程はグループごとに調整)
第4回 (7月6日～7日)	学外実習Ⅱ(奈良県下市町) 第一日：農山村生活体験(家庭料理調理体験・柿の葉寿司)、現地調査打合せ(広橋区女性) 第二日：下市町巡検

b) 授業の概要

本授業は、後期授業(コミュニティ・アクション)とともに、地域コミュニティの現状を理解するためのコミュニティ社会学の理論と方法を実践的に学び、それを通して、課題の解決の糸口となるアクション(PRコンテンツ制作や特産品開発、成果イベントなど)の企画・実践の過程を体験的に学ぶことを目的としている。

本授業ではまず、奈良県を中心に空き家問題の解決のために全国的に活動されているNPO・空き家コンシェルジュ代表の有江正太氏に空き家問題の現状と課題に関する講演をいただいた。学生はこれに基づいて、下市町広橋区清水集落での調査計画を立案し、学外実習Ⅰにおいて現地住民4人の方にお集まりいただき、インタビュー調査を実施した。その結果、現住高齢者の生きがい創出の一環として、遠隔コミュニケーション・システム(スカイプ)を活用した本学留学生への伝統文化・日本語指導の可能性が示唆された。そこで学外実習Ⅱでは、後期授業(コミュニティ・アクション)での「スカイプ実験」計画を立案した。さらに、地域の若手女性グループと話し合いを行い、10月27日に行われる音楽イベント「manabiya 音楽会 2019・児玉奈央ヒカリノハココンサート」への演出協力およびワークショップ開催の打合せを行った。さらに丹生川上神社など地域文化資源の巡検を行った。

担当教員は水垣源太郎(文学部)、佐藤克成(生活環境学部)、寺岡伸悟(文学部)の3人であり、受講生は16人(文学部15人、生活環境学部1人)であった。また秋谷奈美氏には2回の現地実習全体にわたってサポートをいただいた。また現地調査にあたり、東昌博氏(広橋区清水)にご協力いただいた。ここに記して謝意を表したい。

c) 学生の感想と写真

学生からのレポートによれば、本授業が「おもしろかった」、本授業を通して「新しい知識やものの見方がとても得られた」と回答し、受講生の大半が後期授業の受講することにつながった。とくに昨年度からの継続受講生が多く、空き家問題という課題をもって地域住民に調査活動を行ったこと、地域特産物である柿の摘蕾や地域の伝統料理の調理に参加したことが貴重な体験となり、楽しく地域を学ぶことにつながっている。

d) 授業成果（担当教員からのコメント）

今期受講生は、東北地方から中国地方まで、大都市圏から中山間地域まで多様な背景を持つ学生が参加しており、もともと地域コミュニティの問題への関心が高かった。奈良県南部中山間地域の課題を現地住民の方々から直接うかがうという経験、地域の持つ文化資源を体験的に見直すという経験によって、学生は奈良を理解するのみならず、地域コミュニティの課題解決のための実践的方法論を習得することができた。とくに、今回は前期の研究を後期のアクションへ展開するという理想的な授業ができた。さらにはそれをご協力いただいた地域に還元するとともに、次年度以降のさらなる展開へつなげることができたという意味で学生と地域の双方に役立つ授業となったと評価できる。また、今期受講生 1 人が下市町役場に職員として採用されることになり、地域コミュニティへの継続的な貢献を目指す学生を輩出したことは大きな成果と考えられる。



アイスブレイキング（グループ）



アイスブレイキング（全体）



講演（空き家コンシェルジュ）



インタビュー準備



インタビュー



インタビュー参加者集合写真



柿の摘雷体験



地域散策



地域産業見学（前忠）



柿の葉寿司体験



地域文化資源見学



音楽会打ち合わせ

（３）「コミュニティ・アクション」：地域コミュニティの課題解決に向けた活動実践

（担当：水垣 源太郎・佐藤 克成・寺岡 伸悟）

a) 授業実施日

第１回（８月１日）	
第２回（９月１７日）	
第３回（１０月３日）	講義、グループ分け、アイスブレイキング・担当・佐藤ドローン、全方位カメラ、タッチパネルを午前中１か所、午後１か所で試す。
第４回（１０月２６日～２７日）	学外実習Ⅰ（奈良県下市町） 第一日：準備作業 第二日：音楽イベント「manabiya 音楽会 2019・児玉奈央ヒカリノハココンサート」への演出協力およびワークショップ開催
第５回（１２月７日～８日）	学外実習Ⅱ（奈良県下市町） 第一日：下市公開ワークショップ「遠くをつなぐ・異文化をつなぐ」（於：広橋会館）でのスカイプ実験 第二日：振り返り作業

b) 授業の概要

本授業は、前期授業（コミュニティ・リサーチ）に引き続き、地域コミュニティの現状を理解するためのコミュニティ社会学の理論と方法を実践的に学び、それを通して、課題の解決の糸口となるアクション（PR コンテンツ制作や特産品開発、成果イベントなど）の企画・実践の過程を体験的に学ぶことを目的としている。

前期授業（コミュニティ・リサーチ）の成果を踏まえ、①地域の若手女性グループによる音楽イベント「manabiya 音楽会 2019・児玉奈央ヒカリノハココンサート」への演出

協力およびワークショップ、②遠隔コミュニケーション技術（スカイプ）による地域住民と本学留学生とのコミュニケーション実験（スカイプ実験）の2つを実施した。

まず、①音楽イベントへの演出協力として、佐藤講師の主指導の下に「ヒカリノカーテン」ワークショップを企画した。イベントの来場者にステンドグラス風の紙製スライドを制作してもらい、それを開演前のプレイベントとして会場の平面スクリーンに投影し、イベントのテーマである光のイメージを演出するというものである。受講生は、数回にわたって本企画の立案、試行および事前準備を行った。学外実習Ⅰ・第2日のイベント当日、受講生は、本企画以外にもアヒージョ等各種ワークショップのサポートなどイベント全体の実施に協力した。②遠隔コミュニケーション技術（スカイプ）による地域住民と本学留学生とのコミュニケーション実験（スカイプ実験）は、学外実習Ⅱ・下市公開ワークショップ「遠くをつなぐ・異文化をつなぐ」（於：広橋会館）（12月7日）のなかで実施した。これは、遠隔コミュニケーション技術（スカイプ）を通じて下市町と奈良女子大学を結び、中山間地域の伝統文化に関わる語彙や文化について、地域住民の方々から留学生が学ぶ実験（スカイプ実験）である。まず前半は、「ムラ資源点検インタビュー」調査を行い、地域の高齢女性から広橋の伝統文化を聞き取りつつ、留学生に伝えるとよいと思う文化行事や料理を検討した。次に、下市町広橋と奈良女子大学をスカイプでつなぎ、Ⅰで選んだトピックを留学生に話していただいた。学生はその補助を行い、コミュニケーションに伴う問題を聞き取り、課題を考えた。最後に、振り返りとして、来年度の活動についても話し合った。その結果、来年度前期により多くの方々にご参加いただいで実施することとなった。最終成果物として、ムラ資源点検記録と今回の実験を改善した次回実験計画案を提出させた。

担当教員は水垣源太郎（文学部）、佐藤克成（生活環境学部）、寺岡伸悟（文学部）の3人であり、受講生は13人（文学部13人）であった。また秋谷奈美氏には2回の現地実習全体にわたってサポートをいただいた。またスカイプ実験にあたり、東昌博氏（広橋区清水）にご協力いただいた。ここに記して謝意を表したい。

c) 学生の感想

今期は、学生が夏休み期間中から積極的に準備作業に携わり、音楽イベントとのコラボスカイプ実験などのアクションにも積極的に参加していた。こうした経験が楽しく地域を学ぶことにつながっている。

d) 授業成果（担当教員からのコメント）

今期受講生は大半が前期からの継続受講生であり、とくに昨年度からの受講生も多かった。そのため、学生は本授業のねらいを十分理解しており、そのことがとても効率的な学びにつながった。また音楽イベントへの参加は初めての試みであったが、学生は主催の地域女性グループの意図を十分理解しつつ、地域住民との交流を十分に生かしたワークショップを企画実施できた。また公開ワークショップのスカイプ実験では前期授業の成果をふまえた企画実施と振り返りができた。全体として、地域住民との協力・交流の中で学びを進めていく態度が養われたものと考えられる。

次年度も地域住民との協力を通じて本授業を継続的に実施する見込みが立っており、今後も更に展開を試みたい。



ワークショップ準備



ワークショップ



ワークショップ展示



音楽会手伝い（清掃）



音楽会手伝い（餅）



音楽会手伝い（アヒージョ）



音楽会手伝い（こんにゃく）



公開ワークショップ



スカイプ実験



公開ワークショップ振り返り

(4)「地域居住学」 (担当：中山 徹)

a) 目的

地域居住学では町の中心部と山間部をフィールドとしている。今年度は奈良市中心市街地にあるもちいどの商店街を訪問し、商店街の状況、商店街活性化の取り組みを商店街の方から伺った。また、山村として東吉野村、宇陀市を訪問し、地方創生の取り組みについて説明を受け、現地で仕事をされている方の話を伺い、さらに公共施設のリノベーションを見学した。両方とも現地で学んだことを踏まえたワークショップを行い、学生の意見をまとめた。

b) 内容 (商店街)

以下のようなスケジュール、内容で実施した。

① 12月24日(火) 講義 場所：大学

商業施設の立地計画、商店街の現状、商店街活性化の取り組みなどについて説明した。

② 1月14日(火) 現地見学会 場所：もちいどの商店街

商店街の方をゲストスピーカーとして招き、商店街の歴史、商店街活性化の内容などを説明していただき、その後、商店街を案内していただいた。

③ 1月21日(火) ワークショップ、場所：大学

4班に分かれ、学生から見た商店街の魅力、商店街で改善した方がいい点、学生として商店街活性化に協力できることをテーマにワークショップを行った。商店街の方をゲストスピーカーとして招き、各班で取りまとめた内容に対してコメントをいただいた。

c) 内容 (山村)

以下のようなスケジュール、内容で実施した。

① 1月7日(火) 講義 場所：大学

過疎・過密の現状、地方創生の目的と内容、奈良県吉野地域の概要、公共施設の利活用などについて説明した。

② 1月20日(月) 現地見学会 場所：東吉野村、宇陀市

訪問したのは、東吉野村：オフィスキャンプ、旧庁舎、ふるさと村、宇陀市：アクティブセンター宇陀、ふるさと元気村。東吉野村職員、東吉野村に移住して働いておられる方の話を伺った。また旧学校をリノベーションして、宿泊施設、福祉施設、文化芸術施設として活用されている方の話を伺った。

③ 1月28日(火) ワークショップ 場所：大学

4班に分かれ、東吉野村で訪問した旧役場の利活用方策について検討した。

d) 授業成果 (担当教員からのコメント)

例年は10月～11月にかけて山間部のフィールドワーク、ワークショップを実施し、1月ごろに商店街で実施していた。しかし今年度は先方との関係で、両者とも12月から1月に実施することになり、ややスケジュールがかぶってしまった。先方の受け入れとの関係があるため大学側の事情だけで日程を決めることができないが、次年度はできる限り元のスタイルに戻したいと考えている。山間部のテーマは毎年変えているが、今年度は公共施設のリノベーションにした。テーマが具体的であり、学生も取り組みやすかったようである。



もちいどの商店街現地見学会



商店街ワークショップ



東吉野村現地見学会



東吉野村ワークショップ

C. キャリア教育科目

「キャリアデザイン・ゼミナール C(5)」

起業マインド醸成のため、平成 28 年度に「女性の起業(働き方)を考える」セミナーを実施した他、平成 29 年、30 年、令和元年度においては、「なら学+ (プラス)」授業の中で奈良県出身の女性起業家をゲスト講師として招き、当該講師が起業に至った過程や起業の魅力、課題解決などについて紹介してきた。起業マインド教育を深化させるため、今年度キャリア教育科目において、キャリアデザイン・ゼミナール C(5)「『ビジネスプラン』の作り方～アイデアだけでは終わらせない～」を開講した。

回	授業内容
1	ビジネスプランの必要性について ビジネスプランを作成するための意義の理解を深める
2	ビジネスプランの書き方のノウハウについて ビジネスプラン作成にあたってのポイントを身に付ける
3～4	ビジネスプランを考える アイデアを実行可能な具体的なビジネスプランにしてみる 顧客視点、論理的な事業展開などを身に付ける
5～6	作成したビジネスプラン発表ならびに意見交換 競争優位性やマーケティング、将来ビジョンなどを意見交換・情報交換
7	ビジネスプランの改良 業績計画や資金計画など数値への信頼性を高める
8	外部評価と振り返り 外部講師からの評価を受けて、ビジネスプランコンテストへのチャレンジを促す

令和元年 7 月 20 日(土)、8 月 3 日(土)の 2 日間、南都経済研究所から吉村主任研究員・丸尾首席研究員(いずれも中小企業診断士)を講師として開講した。「ビジネスプラン」は事業を展開する際の指針となる計画案であり、内部関係者で確認、共有するのみならず、金融機関や投資家等の外部関係者に計画の意図を伝えて、協力・支持を得るために必要不可欠なものである。本科目では、「ビジネスプラン」の構成要素を理解し、学生自身の「アイデア」を素材に、グループワークを通じて学生相互の観点を交差させ、専門家のアドバイスを得ながら、プラン作成のプロセスを具体的に学ぶことを目指すとともに、「ビジネスプラン」の作成プロセスならびに各自が作成した「ビジネスプランの発表」を通じて、①自分の考えを他者に伝える能力、②課題を取り巻く外的および内的要因に関する情報収集および整理能力、③それらを現実的に検討する能力、および多角的、多面的な思考力、④積極的に行動を起こす態度等の向上を目的とした。

受講した 7 人の学生は、2 日間でビジネスプラン作成の基礎を学び、実際にプランを作成して発表する段階までを体験し、高齢者の余暇時間の有効活用、地域の特産物の有効活用、若者の政治離れ、食と健康、観光客のホスピタリティ向上、災害発生時の支援等、自分自身の経験も踏まえながら様々な観点から提案を行った。受講学生からは、ビジネスプラ

ンの作成・発表にあたり、具体的な計画への落とし込みや独自性、実現可能性、継続性のための資金計画が大変だったといった他、講師からの的確なアドバイスをいただき、ビジネスのノウハウが身に付いたといった感想があった。担当講師ならびにビジネスプランの発表を聞きに駆けつけていただいた南都銀行古川業務役からは、「学生ならではの視点や少し改良すれば実現可能性のあるものなど各自のアイデアをビジネスプランにうまく昇華させている」、「何より学生の地域社会への貢献などビジネスプランに対する熱意が良く伝わった」といった講評をいただいた。



授業の様子

なお、この集中講座の様子は、「ナント経済月報」2019年12月号に掲載された。

Nanto Economic Research Institute

ナント Nanto Monthly Report 経済月報

12
2019

- この人に聞く
株式会社中村屋 代表取締役社長 中村 聖司 氏
- 今号
●外国人をめぐるデータを読み解く(第2回)
●2019年冬季ボーナス支給(予定) アンケート調査結果
●2019年暮らし向き調査結果

Nanto
Economic Research
Institute
ナント経済月報
Nanto Monthly Report

2019 12

Contents

●この人に聞く 株式会社中村屋 代表取締役社長 中村 聖司 氏	1
●外国人をめぐるデータを読み解く(第2回) 株式会社中村屋・行政書士・翻訳士事務所	8
●2019年冬季ボーナス支給(予定) アンケート調査結果 ～17年夏季ボーナス支給から17年冬季ボーナス支給までの調査結果～	14
●2019年暮らし向き調査結果	20
●トピックス 同様に於ける「キャッシュレス」の取組と今後の展望	30
●経済動向 ふるさと納税でCOC+投票「ヒジメスプラン」の取組と今後の展望 ～ナント経済月報・第12号・ふるさと納税・ふるさと納税の取組～	32
●経済動向 17年夏季ボーナス支給について	33
●経済動向 17年夏季ボーナス支給について	34
●経済動向 17年夏季ボーナス支給について	35
●経済動向 17年夏季ボーナス支給について	36
●経済動向 17年夏季ボーナス支給について	37
●経済動向 17年夏季ボーナス支給について	38
●経済動向 17年夏季ボーナス支給について	39
●経済動向 17年夏季ボーナス支給について	40
●経済動向 17年夏季ボーナス支給について	41
●経済動向 17年夏季ボーナス支給について	42
●経済動向 17年夏季ボーナス支給について	43
●経済動向 17年夏季ボーナス支給について	44
●経済動向 17年夏季ボーナス支給について	45
●経済動向 17年夏季ボーナス支給について	46
●経済動向 17年夏季ボーナス支給について	47
●経済動向 17年夏季ボーナス支給について	48
●経済動向 17年夏季ボーナス支給について	49
●経済動向 17年夏季ボーナス支給について	50
●経済動向 17年夏季ボーナス支給について	51
●経済動向 17年夏季ボーナス支給について	52
●経済動向 17年夏季ボーナス支給について	53
●経済動向 17年夏季ボーナス支給について	54
●経済動向 17年夏季ボーナス支給について	55
●経済動向 17年夏季ボーナス支給について	56
●経済動向 17年夏季ボーナス支給について	57

上記の目次は、本誌の掲載内容と一致するものではありません。掲載内容の正確性は、本誌の掲載内容と一致するものではありません。

地域情報

奈良女子大学でCOC+投票「ビジネスプランの作り方」集中講義を開催 ～チャレンジ精神、分析力、コミュニケーション能力等の習得を図る～

文部科学省が全国で推進する「COC+」の拠点大学にふじさわ市立大学「COC+」を指定。2019年度から実施する奈良女子大学では、市内の企業と連携して「COC+」の拠点となる。市内の企業と連携して「COC+」の拠点となる。

奈良女子大学では、2019年7月20日から8月1日まで、計3回の集中講義を開催した。この集中講義は、市内の企業と連携して「COC+」の拠点となる。

奈良女子大学では、2019年7月20日から8月1日まで、計3回の集中講義を開催した。この集中講義は、市内の企業と連携して「COC+」の拠点となる。

奈良女子大学では、2019年7月20日から8月1日まで、計3回の集中講義を開催した。この集中講義は、市内の企業と連携して「COC+」の拠点となる。

項目	内容
1. ビジネスプランの重要性	ビジネスプランの重要性について説明する。
2. ビジネスプランの作成方法	ビジネスプランの作成方法について説明する。
3. ビジネスプランの活用方法	ビジネスプランの活用方法について説明する。
4. ビジネスプランの作成ツール	ビジネスプランの作成ツールについて説明する。
5. ビジネスプランの作成事例	ビジネスプランの作成事例について説明する。
6. ビジネスプランの作成ポイント	ビジネスプランの作成ポイントについて説明する。
7. ビジネスプランの作成チェックポイント	ビジネスプランの作成チェックポイントについて説明する。
8. ビジネスプランの作成アドバイス	ビジネスプランの作成アドバイスについて説明する。

奈良女子大学では、2019年7月20日から8月1日まで、計3回の集中講義を開催した。この集中講義は、市内の企業と連携して「COC+」の拠点となる。

奈良女子大学では、2019年7月20日から8月1日まで、計3回の集中講義を開催した。この集中講義は、市内の企業と連携して「COC+」の拠点となる。

奈良女子大学では、2019年7月20日から8月1日まで、計3回の集中講義を開催した。この集中講義は、市内の企業と連携して「COC+」の拠点となる。

奈良女子大学では、2019年7月20日から8月1日まで、計3回の集中講義を開催した。この集中講義は、市内の企業と連携して「COC+」の拠点となる。



奈良女子大学で実施された「ビジネスプランの作り方」集中講義の様子

また、受講者のうち2人が、授業にて作成したビジネスプランを第5回「かしはらビジネスプランコンテスト」に応募した。このビジネスプランコンテストは橿原商工会議所が「独自技術や地域資源を活用する!」、「地域課題を解消する!」アイデアを生かした新たなビジネスや独自性のあるビジネスプランを発掘・応援するもので今回が第5回目である。

令和元年10月17日(木) 橿原観光ホテルにて、9月30日の一次審査を通過した9人(うち学生3人)が最終審査に臨み、「新規性」、「市場性・将来性」、「実現可能性」、「地域経済・社会への貢献性」、「プレゼンテーション力」といった審査基準に基づいて専門家などによる最終審査が行われた。結果、本学生活環境学部4回生 須川真奈江さんが「審査員特別賞」を受賞した。

須川さんのビジネスプラン「趣味で収入を! 今からでも簡単にできる手芸教室」は、趣味で行われている手芸教室で作成した作品をハンドメイドアプリを使って販売代行を行うもので、趣味の世界から社会との交流の場に、さらに、収入も得ることが出来るというコンテンツを組み合わせたプランで実現可能性も高いことや、地域への貢献度も高いと審査員から評価された。



第5回 かしはらビジネスプランコンテストの様子

D. サテライト設置地域で実施した科目

住環境学科専門科目関連 (担当：室崎 千重)

■住環境学基礎実習における十津川村での活動報告

a) 授業実施日

2019 年 10 月 6 日～7 日	村の魅力発見調査・谷瀬地区稲刈 (谷瀬・瀬峡)
2019 年 11 月 6 日	村の魅力と課題、学生の実践活動案について話し合い @奈良女子大学
2019 年 11 月 8 日～9 日	谷瀬集落の寄合参加、提案内容を集落と相談 散歩道の交換が必要な看板調査
2019 年 11 月 26 日	谷瀬地区での集落活性化への学生の実践活動検討 @奈良女子大学
2020 年 1 月 16 日～17 日	谷瀬集落の寄合参加、提案デザインの試作品の紹介、 集落の方と意見交換、散歩道の手書き看板の更新
2020 年 2 月 28 日/3 月 5 日	美吉野醸造にて 純米酒「谷瀬」の仕込み体験
2020 年 3 月 25 日	谷瀬集落の寄合参加、集落内店舗で使用するラッピング グッズを届ける
後期随時	谷瀬集落のお土産 PR のためのロゴ、ラベル、ハンコ と紙袋等のデザインと製作

b) 授業の概要

住環境学基礎実習では十津川村谷瀬集落に通い、村の方と一緒に今後の移住・定住を見据えた村づくり活動の実践に引き続き取り組んでいる。本授業は地域課題の理解と実践を通して村づくりの方法を学生が主体的に学ぶことを目的としている。初年度からの活動の継続に加えて、毎年を受講学生が地域での気づきをもとに新たな提案を考え、実践している。継続的な活動として、谷瀬集落内のゆっくり散歩道の看板整備と魅力アップ提案、古民家の休憩所“こやすば”の活用、純米酒「谷瀬」の米作りからお酒の仕込みまでの参加がある。今年度の新たな活動は、集落が運営する店舗の商品をお土産として配りたくなる紙袋等のラッピング提案と純米酒「谷瀬」販売時に、集落と大学が地域づくりとして取り組むというストーリーを魅力的に伝えるカードのデザインと製作である。現地調査と住民への聞き取りをもとに学生がデザイン検討し、地元の寄合での提案を経て、製作を進めている。

担当教員は室崎千重 (生活環境学部)、今期は生活環境学部 3 回生 6 人と室崎研究室の学生 8 人が取り組んだ。

c) 学生の感想

3 回生 S さん

今まで先輩たちが行ってきた活動に自分も参加することができて、活動を続けること、引き継ぐことの楽しさ、嬉しさを感じています。私たちの学年は 6 人いるので、それぞれのアイデアが集まって、より良いアイデアになっているのが分かりやすく、また、その

アイデアがイメージ化され、形になると、感動を覚えました。案を提出するだけでなく、実際にモノをつくり、納品して使っていただくと考えると、大変やりがいがあります。十津川村谷瀬集落は奈良市とは違って小さな行政ではありますが、その分、自分たち学生が行ったことも目に見えて反映されるので、とても良い経験になります。

3 回生 H さん

十津川村に対して、私たちが新たに取り組めることは何か、を考える中で、村の魅力を知ってもらうためにできることは自分が思っている以上にあるのだと気づかされました。プロジェクトをすすめていくためには、村のことだけではなく、村に来てくださる人のことも考えなければならないので、どんなモノやコトが求められているのかを導き出すのが大変でもあり、楽しくもありました。これらの経験はいずれも、一人では得られないものなので、このプロジェクトに携わることができ、良かったと思います。

3 回生 R さん

ゼミに入ってから十津川村には何回か行かせて頂いて、谷瀬集落の村おこしやゼミで先輩方々が取り組んできたことを見て、私もぜひそのような活動に参加してみたいと感じました。実際去年の10月頃から3回生がつくる新しいプロジェクトに参加し、集落の住民たちの声を聞き、学生のアイデアで依頼された酒の説明紙や茶屋で使えるかわいいお土産袋を作って寄り合いの時に見せていただきました。村の方々の喜ぶ姿を見てとても嬉しかったです。このような小さなことでも村に必要であり、村の環境をより良くすることができて、これからもこの活動が続いていけたら良いと思いました。

3 回生 I さん

はじめ、どのような活動をするか計画している間は、悩むこともありましたが、無事に形にすることができたので安心していきます。計画していく中で、色々な方から意見をいただき、納得のいくものを作成できたことがとてもよい経験になりました。実際に私たちの活動が、集落の人や観光で訪れた人に届くことがとても嬉しく、このプロジェクトに関わることができてよかったと思います。

3 回生 H さん

十津川村の集落のためにできることを考えてきましたが、私にとっては初めての経験だったので、刺激的でした。試行錯誤して作ったものに対して意見をもらって、より良い形になっていったことが嬉しかったです。この活動によって、この集落の人々と関わることができ、また貢献することができて、良い経験になりました。私達が作ったものが実際に十津川村に訪れた人々に届くことが楽しみです。

3 回生 O さん

奈良に住んでいても、十津川について知らないことばかりだったので、今回のプロジェクトを通して、十津川村のことについて知ることができて良かったです。十津川の魅力を、観光に来た方や、十津川のことを知らない方にも知ってもらえるように、たくさん話し合いを重ねて、自分達が作りたいものがだんだん形になっていくのが良かったです。これから私たちの作ったものを通して、十津川の魅力が広まって欲しいと思います。

d) 授業成果（担当教員からのコメント）

数年間を通して、ひとつの集落に関わることで単年度では実現できない充実した活動となった。前年度の学生の活動をふまえながら、集落がより良くなる新たな提案を重ねることで骨太の質の高い活動となり、集落の人の思いも丁寧にひろいながら活動に繋げることができた。各年の学生も、自分たちの提案・実践が実際に地域で役立つことを体験したことで、学生でも地域に対してできることがあるという実感を得ている。地域と大学が協働する効果とそのひとつの手法を得ることができた。



谷瀬集落での酒米の収穫



谷瀬地区での調査後の話し合い



谷瀬集落の寄合での実践活動提案



谷瀬集落内のゆるり散歩道の看板整備



学生が製作した十津川杉の商品

■福祉住環境学 十津川村の高齢者の暮らしを学ぶ

a) 授業実施日

2019年6月11日	学内にて十津川村概要説明
2019年6月22日～23日 (9人)	村の暮らし体験・高齢者の暮らしのお話 十津川村谷瀬集落の地域活動、 高森のいえ、復興モデル住宅の見学、レクチャー
2019年6月25	学内にてグループごとに現地での気づき、提案を発表

b) 授業の概要

福祉住環境学（住環境学科専門科目）の3回は、中山間地域の高齢者福祉について十津川村の活動より実践的に学ぶ。十津川村の高齢者から昔の暮らし等についてお話を聞き、生活への理解を深める。高齢者も最期まで暮らし続けられる村づくり実践としての「高森のいえ」等の見学を行う。学生は体験をもとに、地域での気づき、課題、提案を整理して発表する。担当教員は室崎千重（生活環境学部）、生活環境学部3回生9人が受講した。

c) 学生の感想

学生の感想レポートには、「高齢者の暮らしは、最初不便そうだなと思った。しかし、暮らしている方々は、そこまで苦労しているようにも見えなかった。ミニマリズムではないけれど、自分の生活に必要なものをわかっていて、自分で生産もしたりして無駄が少ないと思った。私たちの生活もそうするべきと感じた。」「手厚いサポートなど村民が少ないからこそそのメリットもある。」「過疎地域における先進的な住宅の計画について学べた。」「地域に対する愛着が、村を大切にすることにおいてとても大切で、それが集落の名産品や伝統を守っていこう、受け継いでいこうという気持ちにつながっている。」などが挙げられた。



高齢者のお話と暮らし体験



復興モデル住宅の見学

d) 授業成果（担当教員からのコメント）

昔の暮らしの話を高齢者の方に聞きながら、暮らしの必需品であったわらじづくりを体験した。必要なものを自給自足する暮らしの力強さ、集落活動体験を通して村民の村への愛着に触れて、村の魅力を知ることができた。過疎高齢化が課題だと単一的にみるのではなく、村と向き合ってこれからの地域づくりを考える機会となった。

2. 2 就職（企業との関わり）について

1. 県内就職者数の推移

（1）事業協働地域就職率ならびにインターンシップ参加者数の推移（令和2年1月末現在）

事業協働地域就職者率		H26(基準年)	H27	H28	H29	H30	R1
目標値	県内就職者数(人)	30	32	33	35	39	62
	県内就職者率	9.3%	9.3%	10.2%	10.8%	12.1%	19.2%
実績値	全就職者数(人)	323	320	334	321	346	263
	奈良県出身(人)	33	31	21	33	31	27
	県内就職者数	30	22	32	35	42	29
	奈良県出身(人)	12	10	7	11	14	13
	他府県出身(人)	18	12	25	24	28	16
	県内就職者率	9.3%	6.9%	9.6%	10.9%	12.1%	11.0%



インターンシップ参加者数	H26(基準年)	H27	H28	H29	H30	R1
目標値	26	28	30	32	35	40
実績値	23	46	51	57	62	49

○地域内就職者数

- ・事業協働地域内就職率10%アップのための最終年度の目標値は62人となり、ハードルが非常に高くなっており、未達の見込み。
- ・令和2年1月末時点での県内就職者数は29人（県内出身者13人、県外出身者16人）に留まっているが、県内就職を目指したものの不採用となった学生が11人いた他、内定を得たものの検討の結果県外（地元）に就職を決意した学生が8人いた。
- ・本学の特徴として、9割が他府県出身者であるという点に加えて、卒業生の約6割が就職し、他の卒業生は主として本学大学院に進学している。

- ・奈良県出身者は約3分の1が奈良県に残り、3分の2が県外に流出していることが課題として残った。
- ・実質的にCOC+事業が開始した平成28年度以降、インターンシップの強化や県内企業紹介リーフレットの作成・配布の他、COC+コーディネーターによる学生を帯同した会社訪問等の就職支援プログラムが浸透したことから県外出身者の地域内就職者は増加した。
- ・従来から就職実績のあった自治体・県内企業のみならず、COC+事業開始後の新たな県内中小企業開拓の結果、平成26年度以降採用実績が無かった21社に本学学生が22人入社するなど、当該事業の成果が表れている。

H27 (株)靴工房山本、光洋サーモシステム(株)、大同化学工業(株)、(株)大和農園

H28 (株)イベント21、上六印刷(株)、クオリカプス(株)、奈良県信用保証協会、南都コンピュータサービス(株)、(株)吉川国工業所

H29 (有)井上企画・幡、東洋スクリーン工業(株)、(株)十川ゴム奈良工場、国広産業(株)

H30 奈良県民共済生活協同組合、(株)マイ工務店

R 1 奈良交通(株)、ディライト(株)、(株)ベビーフェイス、ヒューマンヘリテージ(株)、(株)樫舎

(R2.1 現在)

○インターンシップ参加者数

- ・奈良県大学連合インターンシップは平成11年にはじまり、現在は、奈良県下57企業・団体に学生の受入れをいただいております。本学は当初からこのインターンシップに参画しています。COC+事業の実施を機に参加学生だけでなく、協力企業の増加にも努め、インターンシップ参加者数は計画以上に推移しています。COC+事業の開始により学生の県内企業に対する認知度が向上し、関心を持つ学生が増えてきたことを示しています。

2. 県内就職者意識アンケート

(1) 1回生の就職意識アンケートの実施

本学入学後ほぼ1年を経過した1回生を対象に、主に奈良県内で就職することに対し、現時点でどのような考えを有するかを尋ね、今後の事業展開の参考とするためにアンケート調査を実施した。概要および結果は次のとおりである。

1) 概要

調査名：「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に関するアンケート

調査対象：必修科目である健康運動実習Ⅱ（A）～（N）を受講する1回生514人

調査日：令和2年1月28日から2月7日の間の各科目開講時

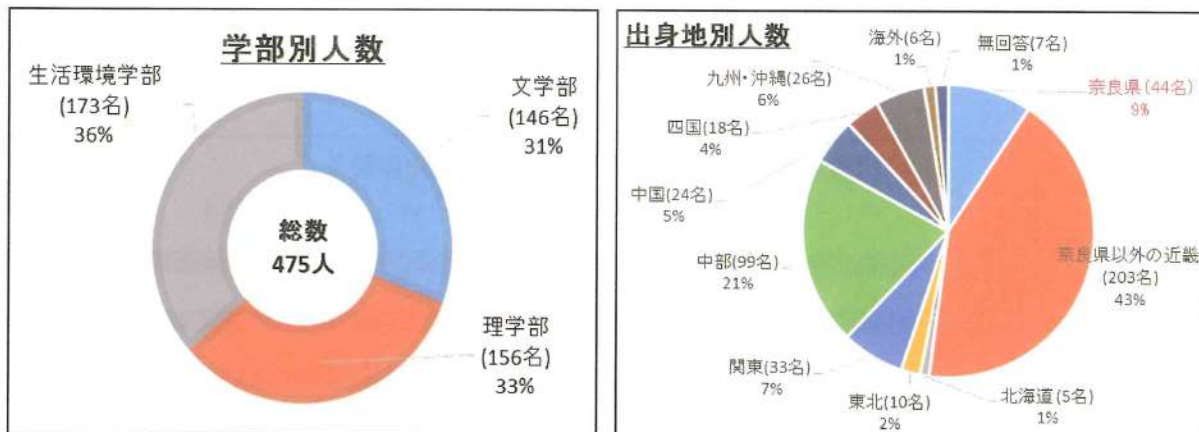
調査方法：質問紙調査（集合調査法）・無記名回答

有効回答数 475人 有効回収率 92%

2) 調査結果

a) 全体の構成

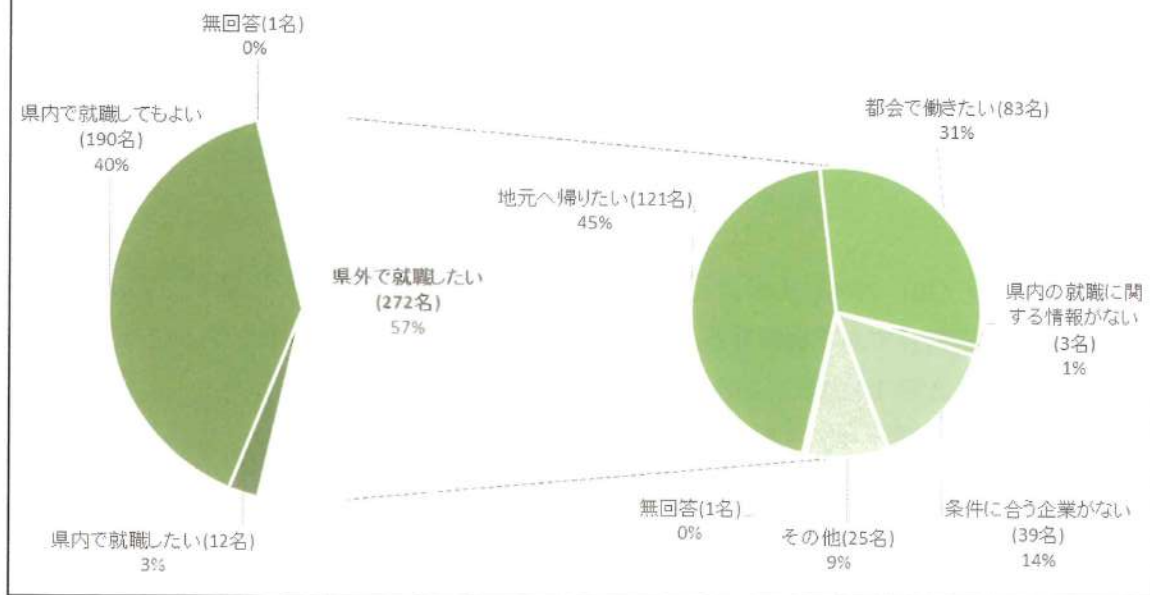
学部別の人数は次のとおりほぼ均等である。次に、対象者を出身地別に分類すると、奈良県以外の近畿が最も多く全体の4割以上を占め、次いで中部、奈良県の順となった。全体に占める奈良県出身者の割合は約9%で、他府県出身者の割合が非常に高い。



b) 奈良県内で就職することに対する意識

現時点において、奈良県内で就職「したい」と回答をした学生は475人中12人とわずか3%（うち奈良県出身者44人中6人）である。そこに奈良県内で就職「してもよい」と答えた学生を加えても過半数には届かず、約6割の学生が県外での就職を希望していることがわかった。その理由について、半数近くが「地元に戻りたいから」と答えており、先に示したように奈良県以外の地域からの入学者が全体の9割を占めるところが大きな要因の一つに挙げられる。就職をはじめとした奈良県への定着促進にあたっては、これらの学生に対していかに奈良県への関心と愛着を持たせることができるかが重要である。

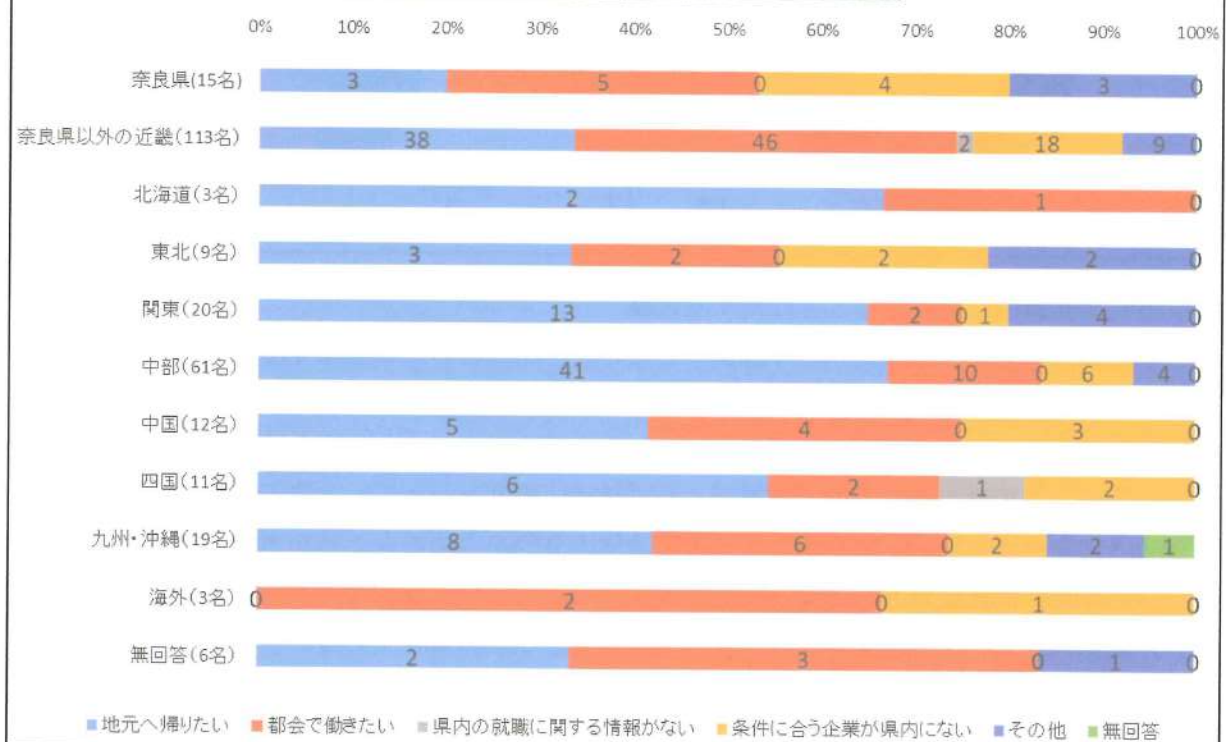
奈良県内で就職することに対して



奈良県内での就職を希望しない理由は「都会で働きたい」という希望も大きな割合を占める。以下、「条件に合う企業が県内にない」との回答数が増加した。他に「給料が低い」「不便」や「奈良県で働くことに魅力を感じない」との記入もあった。

また、奈良県出身者からは「都会で働きたい」や「奈良県を出たい」との地元脱出願望の声も聞かれた。

出身地別に見た奈良県外で就職したい理由の割合



c) まとめ

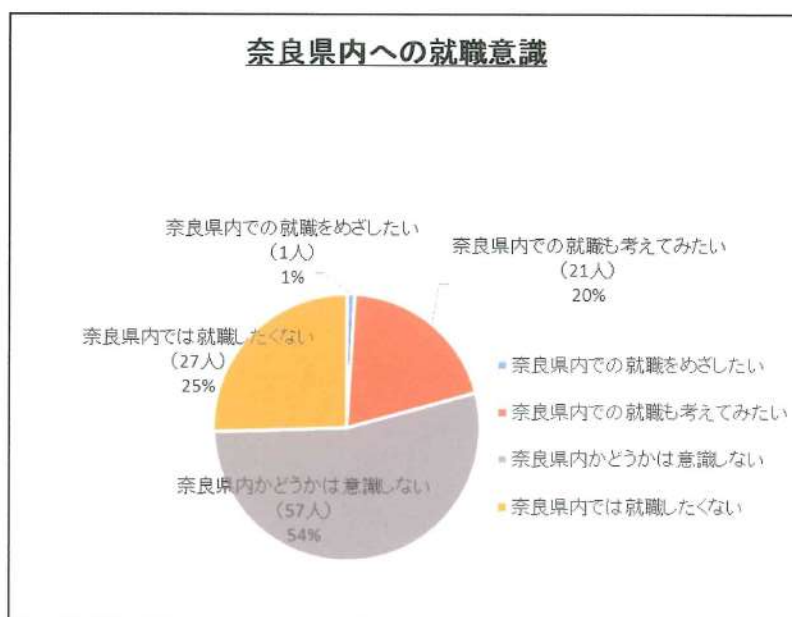
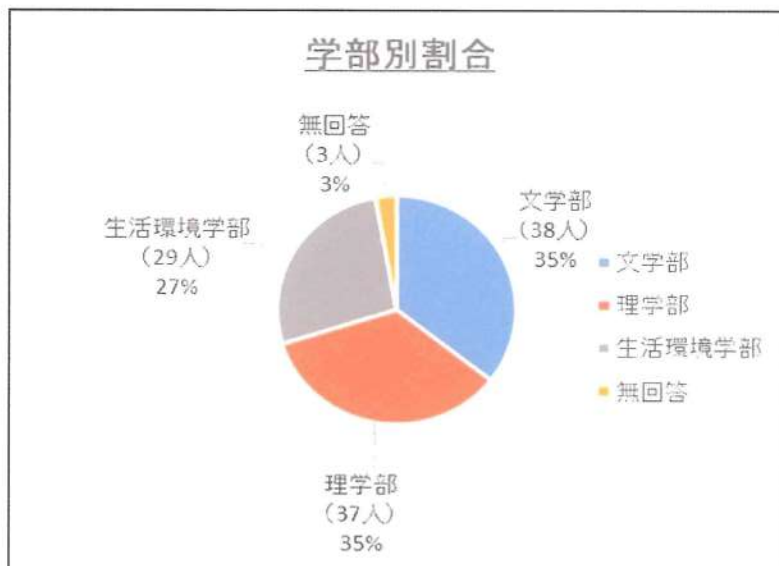
本調査は平成 29 年度から実施しており、毎年 1 回生は卒業後の進路として奈良県内での就職を積極的に志望する意思は高くないことが明らかになっているが、同時に 4 割の学生がまだ選択肢として奈良県を排除していない。ただ「奈良そのものに対する魅力を感じていない」声が複数あったことも事実である。もともと奈良県は生活の利便性や有名企業数で圧倒的に上回る大阪や京都といった大都市に近接している点が就職先の選定にあたっては不利になる側面は否定できず、とりわけ実家や居住地がそうした都心近くにある場合はあえて距離の離れた奈良県へ「出てくる」モチベーションが上がり難いことも理解しうる。

以上のことから、奈良県内の就職に関する情報を的確かつ効率的に伝えることがまず大切ではあるが、1 回生であれば就職を本格的に意識し始めるまでには時間的余裕も見いだせ、より学生の目線に近いところで「奈良そのもの」への興味を掻き立て、自身が関わりを持てるような情報や機会も併せて継続的に発信・提供すれば、そこから「奈良県に根を下ろそう」という気持ちを育み、県内にある企業にもっと目を向けてくれる余地はまだ秘められていると考えたい。

(2) 3 回生の就職意識アンケート

平成 31 年 4 月に 3 回生全員（539 人）を対象に就職意識についての記名式のアンケート調査を実施した。回答者は 107 人（回答率：19.9%）であった。奈良県内での就職を目指したいとする学生は 1 人、奈良県内での就職も考えてみたいとする学生は 21 人、奈良県内かどうかは意識しない学生が 57 人であった。

本アンケートの側面として、奈良県内への就職意識を高めるため、やまと共創郷育センターが実施するイベント情報や県内企業の情報を希望する学生を集めることにあり、本年度は 70 人の学生を加え、現在 164 人の学生がメールでの奈良県内企業情報の受信を希望し、メールマガジン「やまじょぶだより」を提供している。



3. 県内就職支援への取り組み

(1) 県内企業紹介リーフレット

本学は他府県出身者が9割を占めており奈良県出身者が非常に少ないこと、また、上場企業が4社しかなく、学生における県内企業の認知度も低いことから、事業開始以降、「県内企業限定紹介コーナー」をラウンジに設置し、県内企業の周知に努めてきた。その一環として、平成29年度以降、毎年4月に就職活動にはいる3回生全員に県内企業紹介リーフレットを配布している。このリーフレットの大きな特徴は、単に県内企業を掲載するのではなく、平成24年度以降に本学からの新卒入社歴のある会社に「花のアイコン」で印をつけていることである。これにより多くの先輩が県内企業で活躍していることが分かり、県内企業をより身近に感じてもらえるよう工夫をしている。

現在、県内企業周知のため2020年度版（改訂）を新たに作成し、新3回生全員に配布する準備を進めている。



県内企業紹介リーフレット 2020年版
(記載企業数 132社、うち本学生入社企業数 64社)



2019年版



2018年版

(2) やまじょぶだより（メールマガジン）の発信

COC+事業をさらに効果的に展開するための一助として、2018年4月、本学3回生を対象に当センターの就職支援事業や県内企業に関する情報などを直接メールでお知らせするメールマガジン「やまじょぶだより」をスタートした。第1期（2018年度）対象者94人、第2期（2019年度）の新規登録者74人を加え、現在164人に発信している。おおむね月1回のペースで授業ガイダンスや各種のイベント開催、就職に関する情報など、できるだけ学生が読みやすく興味を持つような内容にて展開中である。本年度は10回の配信を行った。

	号	発信日	概要
1	第1号	2019/4/2	キャリアデザインゼミナールC(5)「ビジネスプラン」の作り方 ガイダンスの案内
2	第2号	2019/4/12	南都銀行 会社説明会(4/15)の開催案内
3	第3号	2019/4/18	やまじょぶ新規エントリー者への案内、「県内企業・県内自治体魅力発見フェスタ」の情宣
4	第4号	2019/5/24	「県内企業・県内自治体魅力発見フェスタ！2019」の開催案内
5	第5号	2019/6/6	「県内企業・県内自治体魅力発見フェスタ！2019」の開催案内その2
6	第6号	2019/7/23	バスで行く「3校合同県内企業見学会」の開催案内
7	第7号	2019/10/24	「奈良県奈良しごとiセンター出張キャリア相談コーナー」の案内、他イベント紹介
8	第8号	2019/12/10	奈良県主催 「大学生のための就活準備フェア」開催の案内
9	第9号	2019/12/18	奈良県主催 「3校合同県内企業見学会」開催の案内
10	第10号	2020/2/20	ならジョブカフェ主催 「県内企業見学バスツアー」開催の案内

2019年度「やまじょぶだより」配信一覧

(3) 奈良県奈良しごとiセンター出張キャリア相談の開設実施

令和元年6月～令和2年3月 (のべ19回実施)

やまと共創郷育センターは、COC+事業協働機関である奈良県奈良しごとiセンター協力のもと、令和元年6月より令和2年3月に亘り、原則、毎月第1・第3金曜日の午後、学内に出張キャリア相談コーナーを開設した。奈良しごとiセンターは、奈良県が設置する総合就職相談窓口として、新卒就職・再就職・Uターン就職支援、各種セミナーの開催等、様々なサポートを行う公的な就職相談部門である。出張相談コーナーは、大学会館2階の学生談話スペースの一角に設けられ、予約不要で気軽に訪問できる場とした。支援メニューとしては、「県内企業紹介」、「エントリーシート添削」等、就職活動に関する様々な相談を可能とし、また、奈良県内企業や自治体で勤務する本学OGを招き、ミニ座談会等、今後、学生の奈良県内での満足度の高い就職活動を支援できる企画を提供した。



チラシ



相談コーナー(上)と面談の様子(下)

(4) 主な就職支援活動実績

平成31年度（令和元年度）

実施日	実績
6月17日(月)	県内企業・県内自治体魅力発見フェスタ！2019① (企業4社・自治体2団体 参加者 34人)
6月20日(木)	県内企業・県内自治体魅力発見フェスタ！2019② (企業7社・自治体2団体 参加者 25人)
6月24日(月)	県内企業・県内自治体魅力発見フェスタ！2019③ (企業6社・自治体2団体 参加者 27人)
6月27日(木)	県内企業・県内自治体魅力発見フェスタ！2019④ (企業6社・自治体2団体 参加者 16人)
8月8日(木)	留学生を対象とした下市町企業見学研修の実施 (参加者 15人)
9月24日(火)	会社見学(株)ATOUN と奈良しごと i センター「ジョブカフェセミナー」 (参加者 14人)
9月26日(木)	3校合同県内企業見学会 (奈良経済同友会、南都銀行主催) 訪問先：ディライト(株)、DMG 森精機(株)、名阪食品(株) 参加者：18人 (うち奈良女子大生 14人)
2月14日(金)	3校合同県内企業見学会 (奈良県主催) Aコース3社：(株)伊藤金属製作所、(株)ヒラノテクシード、ニチアス(株) Bコース3社：三笠産業(株)、西垣靴下(株)、梅乃宿酒造(株) 参加者：28人 (うち奈良女子大生 7人)

①「県内企業・県内自治体魅力発見フェスタ！2019」の開催

令和元年6月17日(月)、20日(木)、24日(月)、27日(木)

やまと共創郷育センターでは、学生の県内定着及び就職支援を目的として、全学年を対象に6月17日(月)から6月27日(木)までの4日間にわたり、「県内企業・県内自治体魅力発見フェスタ2019」を開催した。フェスタには本学学生ならびにCOC+参加校である奈良県立大学学生を含め、延べ102人が出席した。

実施日	参加企業	参加者
6月17日(月)	橿原市、奈良県警察本部、(社福)奈良県社会福祉協議会、国広産業(株)、奈良テレビ放送(株)、(社福)ぷろぼ	34人
6月20日(木)	斑鳩町、五條市、上六印刷(株)、梅乃宿酒造(株)、岡本(株)、スケーター(株)、田村薬品工業(株)、DMG 森精機(株)、名阪食品(株)	25人
6月24日(月)	宇陀市、大和郡山市、(株)MST コーポレーション、佐藤薬品工業(株)、サンシー(株)、ダイシン化工(株)、(株)マックス、(株)明新社	27人
6月27日(木)	桜井市、下市町、(社福)奈良県福祉人材センター、岡村印刷工業(株)、クオオリカプス(株)、辰巳電子工業(株)、ディライト(株)、東洋スクリーン工業(株)	16人

今年度は、県内民間企業と自治体を同時に招聘し、企業志望や公務員志望の区別なく奈良県内の様々な職場の話を聞いて、それぞれの仕事内容や魅力を比較検討できるよう内容をリニューアルした。また本学卒業生が在籍する場合は、可能な限りの同席を各企業と自治体に依頼、多数のOGに來校いただいた。

参加学生にとって、インターンシップや今後の就活といった他、自分自身のこれからのキャリアや進路選択を考える上で大いに参考となる有意義なセミナーとなった。

◎場(所)の拠点

県内企業・県内自治体 魅力発見フェスタ！2019

奈良県の企業・自治体が一度に集まります！
公務員・民間企業志望者はもちろん、また具体的に志望を定め切れていない方、
これから進路を考える方にも貴重な機会です。

時間	各日16時30分～18時	参加	無料	服装	全学年	回数	複数回
場所	文学系N棟1階 N101教室	参加	無料	服装	自由	回数	複数回

●第1回●
6月17日(月)

●第2回●
6月20日(木)

●第3回●
6月24日(月)

●第4回●
6月27日(木)

●第1回●
6月17日(月)

●第2回●
6月20日(木)

●第3回●
6月24日(月)

●第4回●
6月27日(木)

※企業にはオリジナルグッズプレゼント！

◎マークはOG参加予定！

<申込み・問い合わせ先> 奈良女子大学 やま共創創育センター
TEL: 0742-20-3080 FAX: 0742-20-3082
1. 企業・学生番号 2. 学号 3. 参加希望日 4. 連絡先電話番号
をお知らせください。 右のQRコードからも申込みできます！

○第1回 6月17日(月) 参加学生の感想(抜粋)

チラシ

- ・私はあまり企業の種類とか業務内容について知らないもので、今回参加して奈良県のいろいろなジャンルの企業を知ることができて、自分の将来を考える上で勉強になりました。これからも、このような機会をできる限り活用して、自分が何をしたいのか真剣に考えていかなければならないと思いました。
- ・1回生なので、希望の職種も何も決まっていなかったのですが、いろんな企業のお話が聞けて有意義な時間になりました。最初にお話をきいた企業さんは理系よりの仕事だったのですが、詳しくお話をきけて、視野が広がった気がします。
- ・奈良県内には他に魅力的な企業がたくさんあることを知ることができ、特定の業種にこだわらず、これから将来のことをよく考える上で多くの選択肢を得る機会になってよかったです。
- ・企業さんから直接お話を聞ける機会を大学で行っていただくのは、とてもありがたかったです。キョリも近く聞きやすかったです。
- ・今まで考えていたような企業や団体のイメージとは変わるところがあって来てよかったなと思います。就職を考えていなかった分野のお話も聞けて今後のことを考えていく参考になりました。



6月17日開催の様子

○第2回 6月20日(木) 参加学生の感想(抜粋)

- ・ 人事の方と実際に会う機会は貴重だと思うので、参加できて良かったです。
- ・ 学校外での企業説明会に行く勇気がなかったので、大変ありがたい企画でした。
- ・ 公務員志望なので、今まで民間企業の方からお話を聞く機会に足を運んだことがなかったので、今日初めてお話を伺って、就職活動を行う上での視野が広まった気がします。
- ・ 色々な企業の方のお話、奈良女子大学のOGの方のお話が聞けてよかった。
- ・ 企業や自治体の方とお話しをするのは初めてでしたが、とても多くのことを知ることができました。今後の学生生活にも役立つと思います。
- ・ 行きたい企業が3つ以上あったので全部行けなくて少し残念だった。
- ・ 各企業の説明がとても良かったです。1回生の私としては就職についてあまり詳しくなかったので、個別の面談時間がとても緊張した。
- ・ 企業の方のお話を聞くことができ、大変勉強になった。仕事に誇りを持っていらっしやると感じ、そのようになれるよう就活を頑張りたいと思った。



6月20日開催の様子

○第3回 6月24日(月) 参加学生の感想(抜粋)

- ・ 就職のことが不安だったのですが、いろいろな企業や自治体の話を聞いてイメージがついてよかったです。OGの方がいると話しやすくて良いなと思いました。
- ・ 自分では調べきれない、発見できない魅力的な企業に出会えてとても良い機会になりました。
- ・ 様々な企業や自治体の話を聞いて学んだことは、その企業・自治体は何をしているかも、もちろん大事だと思いましたが、働く環境を知ること重要だと感じたことでした。
- ・ はじめは、1回生で話がわかるかととても心配でしたが、最終的に3つの企業・団体の方からお話を聞くことができ、コミュニケーションが大切なことがわかり、とてもいい経験になりました。
- ・ なかなかない機会を提供していただきありがとうございました。話しやすい環境で良かったです。奈良の地元企業を今まで知る機会がなかったため、とてもためになりました。奈良の特色を生かしている企業も多く、興味を持ちました。
- ・ 社名だけでは仕事内容が分からないところも多いけど、こうやって気軽に話を聞けて、自分の視野も広がるので良い機会だなと思いました。



6月24日開催の様子

○第4回 6月27日(木) 参加学生の感想(抜粋)

- ・その企業についてだけでなく、その企業の業界についてのお話もきくことができ、見方が広がりました。真近にお話を直接きける機会はこれからもあると嬉しいです。
- ・私は自治体や企業に関する知識がほとんどありませんでしたが、今日の「魅力発見フェスタ」を通じて理解が深まりました。今後もこういった機会があれば是非参加させていただきたいです。
- ・今日はインターンシップや就職のことを考えるきっかけとなりました。もっと様々な企業を調べて、自分の将来について明確にしていきたいです。
- ・奈良県内での就職を考えるきっかけになりました。
- ・自分の将来について考えるきっかけとなり、とても良かったです。今日、学んだことを今後に生かしていければ良いと思います。
- ・奈良に住んでいても県内の企業についてあまり知らなかったの、県内の企業を知るいい機会になりました。先輩の話もきけてよかったと思います。



6月27日開催の様子

②「留学生を対象とした下市町企業見学研修会」

令和元年 8 月 8 日（木）

COC+事業協働機関である下市町の協力を得て、留学生を対象に町の伝統産業である割り箸作り体験や、奈良県南部の主要産業である材木の加工販売を行う企業見学研修を実施した。参加した 15 人の留学生は、吉野杉の割り箸を製造する「工房きえん」、こんにやくを製造販売する「オーカワ」、寺や神社に使われるような特別な木を製造する「吉野銘木製造販売㈱」を訪問した。

「工房きえん」では、1 本 1 本割り箸が製作・製品化されていく現場を見学。吉野杉のまっすぐで美しい柁目を生かし、丁寧に仕上げた割り箸が東京の料亭やレストランを中心に利用されていること等を学ぶとともに、箸職人の手ほどきを受けながら留学生自ら割り箸作りを体験した。また吉野銘木製造販売㈱では、「吉野杉」に関する様々な事業に取り組んでおられ、将来の森林資源の確保・環境保全のため 1 本 1 本の木を大切に育てられていることを学んだ。併せて COC+コーディネーターによる奈良県の伝統産業や地場産業、県内企業の特徴に関する講義も実施し、大変盛沢山の研修となった。

参加した留学生からは、今回の見学研修を通して奈良県の産業への理解が深まったことや国内での就職に関心が芽生えたという感想があった。卒業後に自国に戻る留学生が多い中、下市町の歴史や伝統に触れ、奈良で定住することや就職することに対する関心が向上する等、大変意義深い研修となった。



奈良女子大学下市アクティビティセンターにて



「工房きえん」で箸作り体験



「吉野銘木製造販売㈱」を企業訪問・見学①



また本学在学の留学生 2 人が、吉野町の吉野ビジターズビューローの協力のもと、9 月 24 日～28 日の 4 泊 5 日間吉野町に滞在し、文化や地域産業について体験しながら、吉野ビジターズビューローの事業であるウェブマガジンの記事執筆(中国語)を担当した。吉野山や金峯山寺、津

風呂湖などを訪問したり、寺本木材や森と水の源流館での研修に参加することで、吉野町の観光資源の持つ可能性や工夫について理解を深めることができた。

③ ㈱ATOUN 会社見学ならびに就職活動スタートミニセミナー 令和元年9月24日(火)

生活環境学部心身健康学科スポーツ健康科学コース3回生14人が合宿研修会の一環として㈱ATOUNへの会社見学ならびに奈良しごとiセンターにて「ならジョブカフェセミナー」に参加した。㈱ATOUNは着るロボット「パワードウェア」をはじめとしたパワーアシスト機器を通じて、働く人たちに新たな価値と可能性を提供し、性別や年齢による体力差が差別や障壁とならず、誰もが持てる力をスムーズに発揮できる「パワーバリアレス社会」の実現を目指すベンチャー企業で奈良に本社がある。参加した学生は藤本社長から会社概要、企業理念などの説明を受けた後、実際にパワードスーツを身に付けて荷物の上げ下ろしなどを体験した。

また、午後からは奈良しごとiセンターに場所を移して「就職活動スタートミニセミナー」に参加。中川キャリアコンサルタント、足立・橋本しごとマッチングアドバイザーから今後の就活に必要な自己理解、自身の特性の把握や面接練習の他、奈良県しごとiセンターの支援メニューなどの紹介を受けた。面接ロールプレイングでは実践を通じてチェックポイントが理解でき、今後の就活のあり方への気づきの他、奈良県の産業への理解が深まったことによる県内就職への関心の高まり等、大変意義深い研修となった。

参加学生の感想(抜粋)

●株式会社ATOUN様への企業訪問では、大変貴重なお話を聞くことができ、また貴重な体験もさせて頂き、とても有意義な時間でした。はじめに、藤本社長に私達の緊張がほぐれるようなお話を頂いたことで、よりその後の話を聞く態勢が整いました。加えて、パワードスーツ等について説明して下さった方のお話は、とても聞きやすく理解しやすく、それらについてだけではなく、話し方の勉強にもなりました。また、実際にパワードウェアを利用することは滅多にないところを、今回体験させて頂けたことで、さらなる理解にも繋がったので良かったです。また、今後社会人として働く上での大事なことも教えて頂き、とても勉強になりました。

●ロボットといえば、固い、重い、機械…と少し避けてしまうようなワードが挙げられます。しかし、今回お話を聞いて行くうちに、ATOUNの方々のゴールはロボットをつくることなくロボットを使う人たちの力になることだと感じ、自分にとっても身近なものになるかもしれないと感じました。ロボットを作る上で、ただ「快適さ」を追求するのではなく「不快でないこと」を追求し、現場の課題を把握して、ニーズに合ったロボットを開発しようとする皆さんの思いがたくさん伝わってきました。実際にモデルYを装着させて頂いて、単純にロボットを装着できたことに喜びと楽しみを感じ、また腰への負担の少なさからロボットのサポートの必要性を大いに感じられました。一つ要望を言うならば、私はとても背が小さく力もないため、小さい女性にも合うような調節機能があればと思いました！

●なかなか見ることでできないロボットを実際に触らせて頂き、将来にも役立つ貴重なお話を聞くこともでき、とても有意義な時間でした。ありがとうございました。

●ATOUNのホームページをはじめに見たときは、ロボットの会社であったため、理系職が強そうな印象を持ち自分にはあまり関係ないと感じていた。しかし実際に訪問してみると、開発や研

究だけでなく営業や広告の仕事も非常に重要であること、ロボットがウエイトリフティングなどスポーツの現場で活躍していることを知り、親しみを覚えた。また、私たちにも理解しやすいようにロボットについてお話してくださり、楽しく学ぶことができた。

実際に腰の負担を軽減させるモデルYを装着してみると、普段よりも軽々と重い荷物を持ち上げることができてその技術に感動した。私は産業ロボットと聞くと、受付業務などを代わりにやってくれるといった代替ロボットをイメージすることが多かった。人手不足の解消にはなるが、裏を返せば人の働く場を奪ってしまうというイメージがあったからである。しかし、ATOUNではロボットが人の仕事をサポートする、人とロボットの一体化を目指してロボットを開発しておられ、これまでのロボットのイメージが覆され、驚きと感動の連続であった。



(株)ATOUNにて会社見学



奈良しごとiセンターにて「ならジョブカフェセミナー」

④奈良経済同友会、南都銀行主催による3校合同県内企業見学会 令和元年9月26日(木)

学生の地元定着促進に向け、奈良経済同友会・橿南都銀行主催によるバスで行くCOC+3校(奈良女子大学、奈良工業高等専門学校、奈良県立大学)合同『県内企業会社見学会』を開催。当日は、3校の学生18人(うち奈良女子大学生14人)が参加し、県内企業3社を訪れた。

今回訪問した企業は、①奈良市に本社があり結婚式場やレストランを運営するディライト㈱、②奈良県で生まれ育った工作機械のトップメーカーであるDMG森精機㈱、③桜井市に本社がありオフィスや工場、学校への給食業務を手がけるとともに、高齢者用オリジナル食「そふまる」の開発も行う名阪食品㈱の3社。また、途中で立ち寄った南都銀行研修所では、リーフレット「ナントのホント」による銀行紹介ならび冬のインターンシップ募集の告知を行った。

バスで行く 3校合同 県内企業見学会
～県内企業の魅力を体感しよう！～
参加者募集！
主催 奈良経済同友会・南都銀行

令和元年9月26日(木) 実施
定員30名
※定員になり次第申込締切※

ディライト(株) [奈良市]
1953年創業、結婚式場やレストランの運営。
「顧客甲斐のある会社」5年連続ベストカンパニー。

DMG森精機(株) [大和郡山形町]
1948年設立、独創的で精度が高い工作機械を製造、販売。グローバルを目標とする奈良で生まれた世界のトップ企業。

名阪食品(株) [桜井市]
1968年創業、オフィス・工場や施設給食、ケータリング、高齢者用オリジナルソフト食を手がける。

【日 程】9時～17時(予定)
(詳細スケジュールは参加前に後日お知らせします)
【集合・解散場所】近鉄奈良駅(予定)
【参加費】無料 ※昼食(お弁当)付き！
【対 象】全学部 全学年

<申込み・問い合わせ先> 奈良女子大学 やまと共創センター
TEL: 0742-20-3989 メール: yamato@cc.nara-wu.ac.jp

【奈良、3年生層、3学部、1学部層の活用を
お知らせください。】 各QRコードから申込みをお願いします

チラシ

ディライト㈱では会社理念の紹介、事業説明を受けた後、若手社員から担当の仕事の紹介やチャペル等の施設を見学。DMG 森精機㈱では、会社紹介を受けた後、AI化されている工場を見学した。名阪食品㈱では峯野常務から企業理念の説明を受けた後、高齢者向けに開発され、勅許も持つ「ソフトもち」や「そふまる」を試食した。参加した学生からは、「業種が様々であっても、お客様満足の向上や社員自身の幸福を追求されている企業理念はよく似ている」、「奈良の企業を知る良い機会となった」、「実際に企業を訪問したことで外からでは見えない会社の雰囲気を感じることが出来た」、「インターンシップの情報など得ることができた」、「理系・文系関係なく活躍されており目標にしたい」といった感想が聞かれた。

今回訪問した3社は事業内容もバラエティーに富んでおり、いずれも働きやすさといった特徴もあり、新たな視点で県内企業の良さを知ることができる貴重な体験となった。

参加学生の感想(抜粋)

- ・大学院に進学するか就職するかは迷っていますが、就活に対する恐怖心は和らぎ、楽しみになりました。
- ・3社とも自分が思っていた会社のイメージとは違い、明るく社員さん同士が仲良い印象を受けました。
- ・3つの企業の皆様が親切に説明いただき、とてもありがたかった。公務員ではなくて、企業として商品開発や他社と連携して働くことにとても興味を持ちました。
- ・今回の見学会で奈良の企業を知る良い機会となりました。今まで興味のなかった分野の話も面白くて、これからは自分の興味のない分野の企業についても調べたいとなりました。
- ・外からみるだけではわからない会社の雰囲気を感じることが出来て良かったです。またインターンシップなどの情報が得られたことも良かったです。

・仕事の現場で働いている人のお話を聞いてみることで多くの発見がありました。1日でこれだけの会社を、密度をもって体験することは個人ではなかなかできないのでこれからもこのような機会を設けていただきたいと思います。

・3社とも顧客を県内に絞っておられるのではなく、より広い視野を持たれていることが印象的でした。また男女を問わず活躍されており、目標にしたいなと思いました。

・企業に行って大学との雰囲気が違っているなど気づきながらお聞きした。そしてまだまだ勉強する必要があると感じました。自分の好きな会社に入れるよう頑張っていきます。

・就職の際、奈良県の企業も視野に入れたと思います。

・就活に不安がありましたが、このように県内の魅力的な企業を見学させていただき大変良い機会となりました。

・実際に企業を見学して、直接働いている方の話が聞けて良い経験となりました。



ディライト㈱での見学



㈱南都銀行研修センターにて昼食、併せて、銀行紹介と冬のインターンシップ募集の告知



DMG 森精機㈱での見学



名阪食品㈱での見学

⑤奈良県主催による3校合同県内企業見学会

学生の地元定着促進に向け、奈良県雇用政策課主催によるCOC+3校（奈良女子大学、奈良工業高等専門学校、奈良県立大学）合同「県内企業会社見学会」が開催された。当日は、3校の学生28人（うち奈良女子大学生7人）が参加し、2コースに分かれて県内企業を3社ずつ訪問した。学生たちは到着後会社紹介の説明を受けた後、工場等を見学し、社員の方々と質疑応答を行うなど企業との交流を深めることができた。

奈良県内にはB to B企業が多く、一般消費者向けの広告などを行わないため、B to C企業に比べるとあまり知られていないことが多くあるが、今回訪問した企業は、創業から長く続く優良企業、業界内での知名度やシェアの高さや働きやすさといった特徴があり、新たな視点で県内企業の魅力を発見する良い機会となった。

A コース：(株)伊藤金属製作所、(株)ヒラノテクシード、ニチアス(株)王寺工場

B コース：三笠産業(株)、西垣靴下(株)、梅乃宿酒造(株)

令和2年2月14日(金)



3校合同 県内企業見学会

参加費無料

バスで行く 参加者募集!

参加費無料

令和2年2月14日（金）実施

Aコース

定員20名

Bコース

定員20名

3校企業見学

佐賀県庁、佐賀県立、アットアップの3校をバスで巡るコースです。

リサーチイン・ビジネス、スマーティン・ビジネスの体験教室

「リサーチ・イン・ビジネス」「スマーティン・ビジネス」の体験教室を開催します。

3校企業見学

アットアップ、アットアップ・ハブ、アットアップ・エデュケーションの3校をバスで巡るコースです。

リサーチ・イン・ビジネス、スマーティン・ビジネスの体験教室

「リサーチ・イン・ビジネス」「スマーティン・ビジネス」の体験教室を開催します。

参加申し込みは下記QRコードから

1 参加コース 2 氏名

3 参加希望 4 参加

5 参加確認コード

6 参加完了



定員になり次第締め切りです

「佐賀県庁」佐賀県庁大ホール

TEL: 0742-20-3989 | yamato@cc.nara-u.ac.jp

「アットアップ」佐賀県立大

TEL: 0742-20-3989 | yamato@cc.nara-u.ac.jp

チラシ

参加学生の感想（抜粋）

- ・営業は困り事をきく、それをもとにニーズに応えるものをつくる、とおっしゃっていたのが、自分のこれまでの「営業」のイメージと異なり、新しい価値観が生まれた。
- ・奈良県に様々な企業があることを知りました。企業の業務内容だけでなく働く側の考えや熱意も伝わってきました。
- ・これから就活するにあたって、奈良の企業についてもっと調べようと思います。
- ・3社とも奈良県に根ざした企業で、それぞれの会社の雰囲気が伝わってきた。将来の参考になったと思う。
- ・企画から製造・販売までをすべて1つの会社で行うスタイルと、商品のある部分に特化した会社のスタイルの対比がおもしろかったです。
- ・今回企業の話だけでなく、就活に役立つようなお話を聞くことができ、これからの就活に活かしていこうと思いました。
- ・奈良県内就職したくなりました。中小企業の魅力も感じてよかったです。就職のアドバイスも色々いただいて、就職に対する不安が減りました。



三笠産業(株)



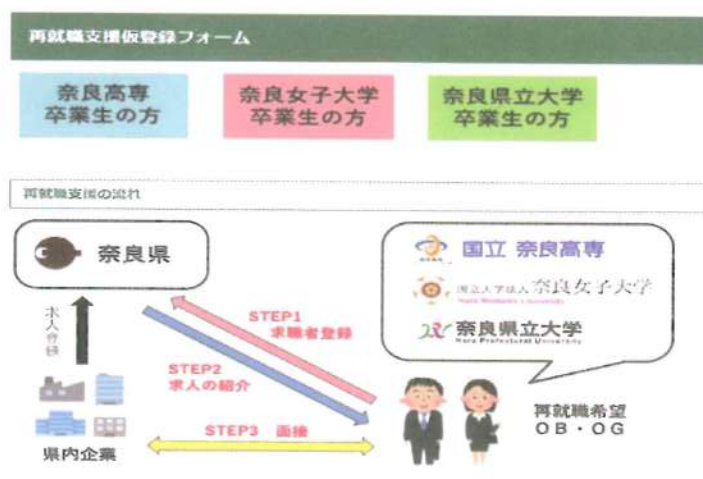
西垣靴下(株)



梅乃宿酒造(株)

(5) 本学卒業生への県内再就職支援

奈良県では、COC+の取組の一環として、奈良高専・奈良女子大学・奈良県立大学と連携し、再就職を希望されているOBやOGの方を対象とした再就職支援に取り組んでいます。



STEP1 求職者登録

(1) メールフォームでの仮登録

- ◆上記メールフォームにて必要事項を記入の上、仮登録をしてください。
- ◆仮登録後、支援機関より、求職者登録（本登録）のための面談日時のご連絡をさせていただきます。

(2) 求職者登録（本登録）

- ◆求職者登録のための面談の実施・求職者票の受理をもって求職者登録をします。
- ◆面談では、求職者の方に最適な求人をご紹介できるよう、希望や現状を詳細にお伺いします。

STEP2 求人の紹介

- ◆いただいた求職者情報をもとに、個々の希望や適正に応じた求人を一件ずつご提案します。ハローワークと違い、一件の求人につきお一人ずつ提案することで、確実にきめ細かなマッチングを実現させます。

STEP3 企業との面接

- ◆ご提案した求人への応募を希望される場合、求人を出している企業と面接をしていただきます。
- ◆企業から採用の内定が出れば、窓口でのサポートは終了です。

(参考) 就職支援活動の主な過去実績 (平成 28 年度～平成 30 年度)

平成 28 年度

実施日	実績
11 月 19 日(土)	県内企業魅力発見セミナー 参加企業 22 社 参加者 120 人 (体育館にて)

地(知)の拠点

奈良県内企業魅力発見セミナー

平成28年
11月19日(土) 13:00～17:00

会場：奈良女子大学 第1体育館
(集合：12:00 N202教室 ガイダンス実施)

奈良県内の優良企業を知るチャンス！
将来の働き方、生き方を考えてみよう！

友達と一緒に
気軽に参加
OK

◎本学学生を中心とする奈良県立大学、奈良工業高等専門学校との合同セミナーです。

◎参加企業別のブース(1企業1テーブル)を設けます。各企業の担当者と少人数で接することが出来るチャンスです！OGが来てくれる企業もたくさんあります。

◎奈良県は産業・福祉に携わる人の割合が高く、製造業では、繊維・ファッション・食品加工が盛ん。高い技術をもつインテック企業も多く、業界の動向、方向性、仕事内容、求める人材等について情報収集することができ、業界研究と仕事選択の重要な材料となります。

OGの話が聞ける

参加優良企業
約20社

服装自由

「奈良しごとセンター」の
相談窓口あり

◎奈良女子大学 やまもと社会福祉センター
◎奈良女子大学 学生支援室 就職支援部門

※資料の準備の開始上、就職係カウンター発付で受付込みください。




平成 29 年度

実施日	実績
7月4日(火)	県内企業 OG との交流会① (参加 OG 6人 参加者 36人)
7月6日(木)	県内企業 OG との交流会② (参加 OG 6人 参加者 17人)
8月8日(火)	ならやま研究パーク内合同会社見学会 訪問先: (株)ATOUN、ダイワハウス工業(株)、アイコム(株)、南都経済研究所 参加者: 27人 (うち奈良女子大生 15人)
10月21日(土)	奈良県主催 女子大学生ワーク&ライフ EXPO の開催(体育館にて) 参加企業: 25社、参加者: 260人 (うち奈良女子大生 225人)
10月21日(土)	EXPO 参加者と大学関係者との交流会 (ラウンジにて) 参加者: 企業 23社 50人 (うち本学 OG 8人)、教職員 11人、学生 24人
12月19日(火)	県内自治体の魅力を知るセミナー開催 参加自治体: 9団、参加者: 35人
2月19日(月)	バスで行く県内企業見学会 (南都銀行、奈良経済同友会主催) 訪問先: DMG 森精機(株)、三和澱粉工業(株)、(株)イムラ封筒、佐藤薬品工業(株) 参加者: 31人 (うち奈良女子大生 11人)
2月20日(火)	バスで行く県内企業見学会 (南都銀行、奈良経済同友会主催) 訪問先: 大光宣伝(株)、小山(株)、(株)大和農園、岡村印刷工業(株) 参加者: 23人 (うち奈良女子大生 15人)

◎場(知)の拠点

県内企業OGとの交流会 in ラウンジ

～先輩に聞こう！～

全学年
対象

参加費
無料

服装
自由

7.4(火) 17:00～18:30
7.6(木) 17:00～18:30

スイーツ
付き！

場所: ラウンジ (文学系S棟1階)

【参加OG訪問先】※※※

奈良県、奈良市、南都銀行、上六町町会、
南都コンピュータサービス株、
奈良県警本部 (1/4 のみ)

奈良県内の企業・自治体に勤めている先輩とお話ししてみませんか？
仕事のこと・奈良のこと・オフの過ごし方など、なんでもOK。就職説明会とは
違うので、お菓子を食べながら気軽に先輩の本音を聞いてみよう！

就職係カウンター受付でお申し込みください。
(各日先着 30 名、6/30(金)締切)

お問い合わせ先: 奈良女子大学 ならやま研究センター 交流室
0742-20-8999
Eメール: nara@nara-u.ac.jp



奈良女子大学・奈良工業高等専門学校・奈良県立大学
合同会社見学会
 平成 29 年 8 月 8 日(火)

仕事や研究の様子を実際に見ることのできるまたとない機会！

日 時	平成 29 年 8 月 8 日(火) 12 時 30 分～16 時 30 分
場 所	ならやま研究パーク(奈良市左京 6 丁目) アイコムビル、株式会社 ATOUN、大和ハウス工業
対 象	全学部・全学年
費 用	参加費無料(JR 平城山駅までの交通費は自己負担)

当日スケジュール(予定)

時間	内容
12:30	JR 平城山駅集合
13:00	南都経済研究所
13:15	「アイコムビル/株式会社 ATOUN」 「大和ハウス工業」を見学
16:30	現地解散

※すべて徒歩で移動します。

アイコム株式会社
 デジタル通信機器等の研究開発、
 無線通信機器、ネットワーク機器の製造・販売。

株式会社 ATOUN
 パワードーツ、パワーアシスト機器等の研究
 開発事業、製造販売。

大和ハウス工業株式会社
 人・モノ・暮らしの価値創造グループ。
 住宅・商業施設、環境事業、建設コネなど。

就職係受付カウンターでお申し込みください。
 (先着 15 名、7/14 締切)

お問い合わせ先:奈良女子大学やま共創教育センター
 TEL:0742-20-3959
 メール:coe-yama@cc.nara-wu.ac.jp



女子大生と企業者がつくる
女子大学生 ワーク&ライフ EXPO
 NARA CAREER
 2017.10.21
 11:00～16:30
 奈良女子大学体育館

就活のスタートラインに立つ前に聞く自分のイメージを存ろう！

働く女子のリアルが聞ける・聞ける！
 女子大学生が所属する国内25社が参加
 企業テーブル＆パネルトーク
 イベントが盛りだくさん！
 ●就活・キャリア講座 ●新卒採用セミナー ●カフェなど
 ●和歌山・奈良・京都・大阪・神戸・福岡・東京など

女子大学生対象
 記念講演 13:15～14:15
 ※第二会場

私がつくる
 未来のワタシ
 講演 中瀬ゆかりさん
 株式会社日本経済新聞社
 「ワタシ」の編集者

SNS・ブログをチェック！
 Twitter Facebook
 #jpuexpo



県内の自治体が集合。自治体に興味のある方必読！

OGにも会える

奈良県警
奈良市
大和郡山市
天理市

橿原市
桜井市
生駒市
宇陀市
斑鳩町

県内自治体の魅力を聞くセミナー

日時 平成29年12月19日(火)16時30分～18時10分

場所 大学会館2階 大集會室

対象 全学年

参加無料
服装自由

当日飛び込み参加も可能ですが、準備の都合上、事前申し込みにご協力ください。

申込先:就職係受付カウンター
(締切:11/30(木))

お問合せ先:奈良女子大学やまと共創教育センター
TEL:0742-20-3989
e-mail: coc-yamato@cc.nara-wu.ac.jp



県内企業見学会

奈良女子大学 × 奈良工業高等専門学校 × 奈良県立大学

2/19(月) 参加者募集 2/20(火)

Aコース 定員40名
～ものづくり企業メイン～

DMG森精機(株)
売上第1位のトップの
工場見学ツアー

三和澱粉工業(株)
トウモロコシを原料に
さまざまな加工品を生産製造

(株)イムラ封筒
封筒工場見学～作る
工程～

佐藤食品工業(株)
奈良県産農産物の
リーディングカンパニー

Bコース 定員40名
～サービス系企業メイン～

大光宣伝(株)
関西近畿も和歌山
トータルセールスプロモーション

小山(株)
世界トップレベルのバイオ
医薬・化粧品/介護事業も

(株)大和産業
ホールディングス
国内最大の「機」を生産
新鋭アグリカンパニー

岡村印刷工業(株)
ポスター、書籍、パッケージなど
近畿圏内でも高く評価される印刷力

※いずれもバス送迎を申し渡す方限定です。 ※詳細な日程は申し込み済みにお知らせします。
★掲載の日程は、および送迎バスは変更となる場合もあります。

お申し込みは就職係受付カウンターへ
お問い合わせ先:奈良女子大学やまと共創教育センター
TEL:0742-20-3989 e-mail: coc-yamato@cc.nara-wu.ac.jp



主催:株式会社南都銀行・奈良経済同友会
奈良女子大学・奈良工業高等専門学校・奈良県立大学

平成 30 年度

実施日	実績
6 月 6 日(水)	県内企業業界研究会①（参加企業：6 社、参加者：13 人）
6 月 14 日(木)	県内企業業界研究会②（参加企業：7 社、参加者：23 人）
6 月 19 日(火)	県内企業業界研究会③（参加企業：7 社、参加者：22 人）
7 月 3 日(火)	県内企業 OG との交流会①（参加 OG：6 人、参加者：15 人）
7 月 4 日(水)	県内企業 OG との交流会②（参加 OG：6 人、参加者：7 人）
10 月 27 日(土)	女子大学生ワーク&ライフ EXPO（体育館） 奈良県主催 参加企業：25 社、参加者：63 人 （プロジェクト企画メンバーとして本学学生が 21 人参加）
11 月 7 日(水)	県内企業会社見学会①（クオリカプス㈱） 参加者：4 人
11 月 16 日(金)	県内企業会社見学会②（DMG 森精機㈱） 参加者：8 人
11 月 21 日(木)	県内企業会社見学会③（三笠産業㈱） 参加者：2 人
11 月 28 日(水)	県内企業会社見学会④（㈱MST コーポレーション） 参加者：4 人
12 月 5 日(水)	県内企業会社見学会⑤（㈱呉竹） 参加者：4 人
12 月 12 日(水)	県内企業会社見学会⑥（梅乃宿酒造㈱） 参加者：5 人
12 月 19 日(水)	県内企業会社見学会⑦（佐藤薬品工業㈱） 参加者：3 人
11 月 29 日(木)	県内自治体の魅力を知るセミナー 参加自治体：10 団体、参加者：23 人
2 月 15 日(金)	奈良県主催 3 校合同バス県内企業見学会 A コース 3 社：㈱品川工業所、上六印刷㈱、㈱フジフレックス B コース 3 社：辰巳電子工業㈱、㈱藤田油機、ケイミュー㈱ 参加者：31 人（うち奈良女子大生 2 人）

全学部・全学年対象 奈良県内の企業とつながる活動

県内企業研究会を開催します！

※参加企業(予定)※

6/6(水)

【会場】 文学部G棟 G201教室

陶村印刷工業

【印刷業】

河村繊維

【繊維業】

佐々木天保堂

【食品業】

廣田産業

【製造業】

(社)福ふろほの

【社会福祉事業】

クオパハウス

【製造業】

6/19(火)

【会場】 文学部H棟 H202教室

有明製紙

【印刷業】

西垣靴下

【繊維業】

スケーター

【靴業】

田村食品工業

【食品業】

原田電子工業

【製造業】

若三機山

【製造業】

水戸日紙産業

【製造業】

6/14(木)

【会場】 文学部G棟 G101教室

岡本

【製造業】

上バ印刷

【印刷業】

名産食品

【食品業】

ダイシン化工

【製造業】

株式会社コーポレーション

【製造業】

チャイルド

【サービス業】

奈良テレビ放送

【放送事業】

※特にスーツなどを着用する必要はありません。
※特に参加してください。

時 間 いずれも午後4時30分～午後6時

それぞれお申し込みいただいた後は、各企業のテーブルで直接お話しをします。いろいろ質問していきましょう。

申し込み要 ①参加希望 ②学部・年生 ③お名前 ④連絡先

奈良女子大学やま共創開発センターへ

各開催日の2日前までお知らせください。

メール:yamato@cc.nara-wu.ac.jp / 電話:0742-20-3989

このQRコードをスマホで読み取り申し込み！



県内企業OGとの交流会 in ラウンジ
～先輩に聞こう！～

全学部
対象

参加費
無料

参加
自由

7.3(火)17:00～18:30

7.4(水)17:00～18:30

場所:ラウンジ(文学系S棟1階)

【参加OG勤務先:4社/所】

奈良県庁、奈良県警察本部、奈良県消防、

奈良市役所(山田とも)

クオリカブス㈱、奈良テレビ放送㈱(7/4のみ)

上バ印刷㈱、東海スクリン工業㈱(7/4のみ)

奈良県内の企業・自治体に勤めている先輩とお話してみませんか？

仕事のこと・奈良のこと・オフの過ごし方など、なんでもOK。就職説明会

とは違うので、お菓子を食べながら気軽に先輩の本音を聞いてみよう！

メールでお申し込みください。

(各日先着30名、6/30(金)締切)

メール:yamato@cc.nara-wu.ac.jp

(メール入力欄に:日付、学部・名、学年、学号を記入)

お問い合わせ先:奈良女子大学やま共創開発センター

0742-20-3988

E: yamato@cc.nara-wu.ac.jp



県内の自治体が集合。自治体に興味のある方必聴！

OGにも会える

奈良県警 奈良市 天理市 橿原市 桜井市 御所市 生駒市 宇陀市 斑鳩町 下市町

県内自治体の魅力を聞くセミナー

日時 平成30年11月29日(木)16時30分～18時10分

場所 大学会館2階 大集会室

対象 全学年

右記QRコードからお申込みください

当日飛び込み参加も可能ですが、準備の都合上、事前申し込みにご協力ください。

お問合せ先：奈良女子大学やまと共創教育センター
TEL:0742-20-3989
〒742-0292 yamato@cc.nara-wu.ac.jp



奈良県主催

バスで行く

～県内企業の魅力を体感しよう！～
奈良女子大学・奈良工業高等専門学校・奈良県立大学

3校合同 県内企業見学会

全学年対象 参加者募集！ 参加費無料

平成31年2月15日(金)実施

Aコース 定員20名 Bコース 定員20名

定員になり次第締め切ります！

(株)品川工業所 (田原市) 創業垂久 食品加工機械のバイオフィニア 製菓・食品加工・理化学機械の開発・製造

(株)フジプレックス (三好市) 医療機器の開発・製造・販売 顧客サービスシステムで様々なニーズに対応

上六印刷(株) (三好市) 高級美術パッケージの設計・生産 取組先は国内トップブランドメーカーが中心

奈良電子工業(株) (高市町) アークゲートゲーム機やソフトの企画・開発・販売 ユニークな開発で楽しさを提供

(株)藤田油機 (大和町) 油圧機器・地下掘削の設計・製造 安心な高品質化で産業社会に貢献

ケイミュー(株) (大和町) クボタ・パナソニックのグループ会社 屋根材・外壁材のトップメーカーとして新たな住宅建築を創造

※9時 春日木ホテル前集合 16時50分頃 春日木ホテル前解散 (集合・解散場所までの交通費は自己負担)

※服装(お弁当)は各自負担で配布します ※詳細日程は参加後に後日お知らせします

平成31年 1月31日(木) 申込締切！

下記問合せ先・QRコードからお申込みください。

①参加コース ②氏名 ③学年番号 ④学部 ⑤連絡用電話番号をお知らせください。

<奈良女子大学 問合せ先>
やまと共創教育センター
TEL: 0742-20-3989
Mail: yamato@cc.nara-wu.ac.jp



2. 3 成果の社会的還元（地域貢献）について

総 論

平成27年度のやまと共創郷育センターの発足とともに、COC+事業活動の内容を広く知って頂くためにホームページを開設し、積極的な広報活動に努めており、令和元年度のHPへの掲載記事数は23件（平成31年4月～12月）であり、毎月の平均アクセス数は300件を超えている。また「やまと共創郷育センター NEWSLETTER」を発行し、学内・学外に向けてCOC+事業を周知するとともに、地（知）の拠点となるべく、地域の自治体や中小企業と協働し、地域の雇用創出の役割を果たしてきた。

（1）ニュースレターの発行

令和元年度は、COC+事業の周知のため、全教職員に向けて毎年2回のニュースレターを発行した。

2019年春号ならびに2019年秋号の主な内容は以下の通りである。

【2019年春号】（2019.03.06発行）

- ・ 様々な分野で県内各地域、自治体、企業と連携・協働
- ・ 平成30年度後期のCOC+事業の取り組み
- ・ COC+フォローアップに係る現地視察を受けました
- ・ 地域志向科目の必修化を進めています
- ・ 平成31年度にアントレプレナー科目を新規開講します
- ・ 県内就職の事業目標達成に向けてのご協力

【2019年秋号】（2019.10.01発行）

- ・ 平成30年度COC+シンポジウムを開催
- ・ COC+評価委員会、COC+事業協議会を開催
- ・ 「地域志向科目」の開講状況
- ・ 令和元年度前期のCOC+事業の取り組み
- ・ サテライト施設情報
- ・ 地域志向科目「なら学+（プラス）」を後期開講します



(2) 共同研究の取り組み

①国広産業㈱（バレル研磨用研磨石（プラスチックメディア）製造）



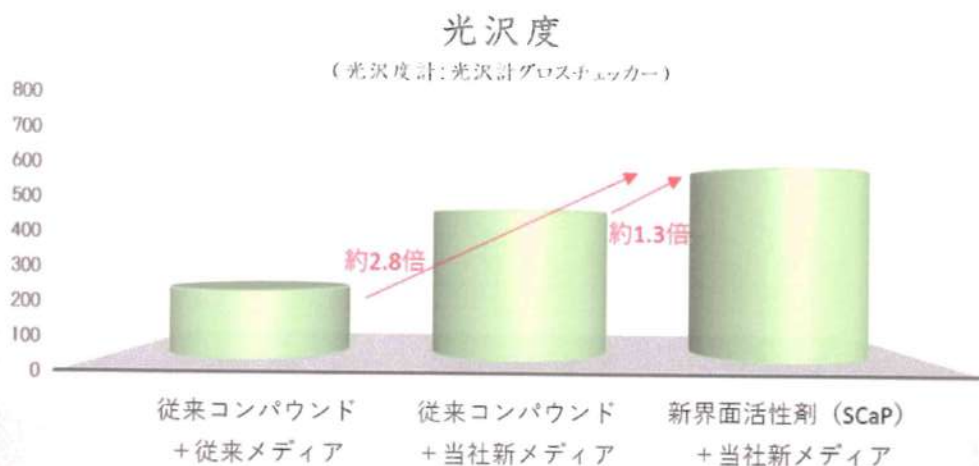
2019 年 奈良女子大学 吉村研究室－国広産業㈱ 共同研究 実績報告書

共同研究テーマ：「プラスチックメディア（研磨石）における界面活性剤の用途拡大と応用、最適な界面活性剤・離型剤開発」

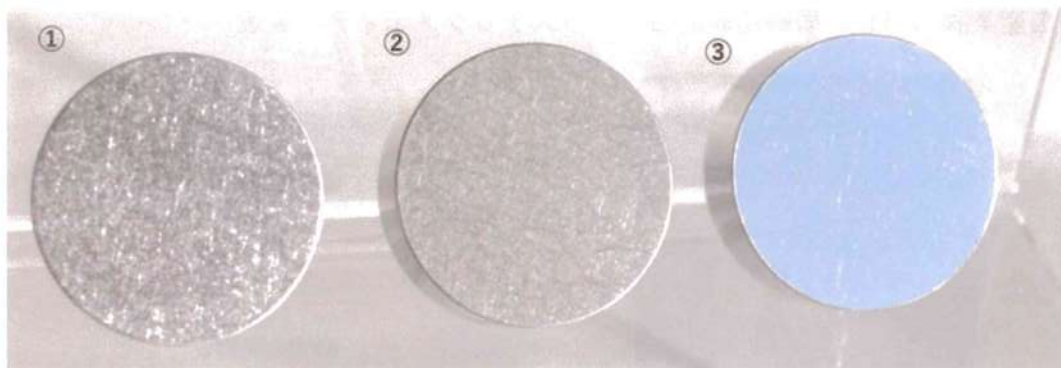
バレル研磨には、メディアと研磨対象物以外に水とコンパウンド（界面活性剤）が必要となる。コンパウンド（界面活性剤）の役割は、研磨対象物とメディアの研削により発生するスラッジ（削りカス）処理である。近年、顧客ユーザから高研磨力・高光沢力がメディアに求められており、同時にコンパウンド（界面活性剤）の役割も単に研磨する上で補助的なものから、より研磨性能を向上させるものへと重要度が増してきている。

界面活性剤の基本特性（表面張力等）を測定しながら、研磨性能との効果、相関性の評価を繰り返し、色々な種類の界面活性剤の研究開発に取り組んだ。

昨年の共同研究から界面活性剤の可能性を認識し、今年は、色々な界面活性剤が研磨性能にどのような効果が得られるか実験を積み重ね、これまでにない新しい界面活性剤開発の糸口が見えてきた。大きな成果として、3種類の混合した新界面活性剤（仮名称：SCaP スキャップ）が研磨性能の光沢度に高い効果が得られることが分かった。アルミ素材表面の光沢において、従来のバレル研磨と当社メディアでは、これまで光沢度を高めるのが難しかった中で、従来の約 1.3 倍の光沢度が得ることができた。



研磨実験用アルミテストピース 研磨後の表面比較



No	①	②	③
コンパウンド (界面活性剤)	従来コンパウンド	従来コンパウンド	共同研究中 新界面活性剤 (SCaP)
メディア	T-1 (従来メディア)	M-1(当社新メディア)	M-1(当社新メディア)
光沢度	216	475	615
研磨性能比較	△	○	◎

今後、新界面活性剤の成分が研磨にどのように働いているのか実験を継続し、更なる性能向上を図っていきたいと考えている。

次の共同研究の目標として、奈良女子大学 吉村研究室で研究されている界面活性剤の合成・化学構造デザインを行っていきたいと考えている。

研磨性能に深く関係する泡性能にユニークな特徴を持ち、従来の濃度に比べ低濃度で研磨性能が得られる可能性がある。更に化学構造による研磨性能の違いの研究開発についても取り組んでいく。

②賃貸のマサキ（正木商事㈱）との共同リノベーションプロジェクト

正木商事㈱と生活環境学部住環境学科の学生が、地元企業と大学の協働による地域活性化を目指した共同プロジェクトで、H29年度は老朽化した賃貸アパート（1K）のリフォーム、H30年度は新築マンション（1DK）の内装を実施、3年目となる今年度は既存マンション（1R）の内装改修提案に取り組んだ。

参加学生は実際の部屋を内覧・実測したのち、2班に分かれて内装提案を行った。コンセプトは、1班が「男性でも女性でも利用できる中性的なデザイン。カッコよくスタイリッシュな部屋」、2班が「ロフトで暮らす。入居したくなるおしゃれな部屋」である。正木商事㈱に下記のプレゼンシートで提案し、2班のロフトで暮らす案をベースに、1班のよいアイデアも取り入れて案をまとめた。今年は、工事完了後に学生が考える一人暮らし提案に対して、必要なグッズ（例えばキッチンの水切りラックなど、通常は入居者が購入するもの）の購入・設置も担当し、一人暮らしの生活のイメージが湧きやすい部屋が完成した。物件のオーナーさんからも改修提案と完成した部屋に高評価をいただいた。



改修前の部屋



改修後の部屋



現場調査の様子



打ち合わせの様子

1 班の提案

【ターゲット】

学生

【コンセプト】

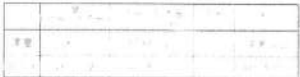
学生に必要で、かつ、生活の質を向上させるための家具・インテリアを提案する。

【のび（生活費・生活など）など】

¥147,000

【特色】

1. カラーの統一



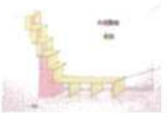

2. ベンチのとりこみ・ソファのシートをひく

3. カラーの統一

4. ベンチのとりこみ・ソファのシートをひく

3. 収納のアイデア

「収納」は、生活の質を向上させるための重要な要素。収納スペースを有効に活用することで、生活の質を向上させることができる。




「階段の壁に収納スペースを設けることで、収納スペースを有効に活用することができる。」

4. ドローボード・デスクのアイデア

「ドローボード・デスク」は、生活の質を向上させるための重要な要素。ドローボード・デスクを有効に活用することで、生活の質を向上させることができる。




「ドローボード・デスクを有効に活用することで、生活の質を向上させることができる。」

5. 収納のアイデア

「収納」は、生活の質を向上させるための重要な要素。収納スペースを有効に活用することで、生活の質を向上させることができる。



「ロフト」は、生活の質を向上させるための重要な要素。ロフトを有効に活用することで、生活の質を向上させることができる。

6. 生活の質を向上させるためのアイデア

「生活の質を向上させるためのアイデア」は、生活の質を向上させるための重要な要素。生活の質を向上させるためのアイデアを有効に活用することで、生活の質を向上させることができる。



「生活の質を向上させるためのアイデア」は、生活の質を向上させるための重要な要素。生活の質を向上させるためのアイデアを有効に活用することで、生活の質を向上させることができる。」

7. 生活の質を向上させるためのアイデア

「生活の質を向上させるためのアイデア」は、生活の質を向上させるための重要な要素。生活の質を向上させるためのアイデアを有効に活用することで、生活の質を向上させることができる。



「生活の質を向上させるためのアイデア」は、生活の質を向上させるための重要な要素。生活の質を向上させるためのアイデアを有効に活用することで、生活の質を向上させることができる。」

8. 生活の質を向上させるためのアイデア

「生活の質を向上させるためのアイデア」は、生活の質を向上させるための重要な要素。生活の質を向上させるためのアイデアを有効に活用することで、生活の質を向上させることができる。



「生活の質を向上させるためのアイデア」は、生活の質を向上させるための重要な要素。生活の質を向上させるためのアイデアを有効に活用することで、生活の質を向上させることができる。」

2 班の提案

ロフトで暮らす
女子大生も男子学生も入りたくなくもデザインのおしゃれなお部屋

1 ロフト
ロフトは、1階と2階の間に設けられた空間で、主にベッドやデスク、収納などを設置する。この家は、ロフトを有効活用し、コンパクトながらも快適な生活空間を実現している。

2 天井
天井は、1階と2階の間に設けられた空間で、主にベッドやデスク、収納などを設置する。この家は、天井を有効活用し、コンパクトながらも快適な生活空間を実現している。

3 階段
階段は、1階と2階の間に設けられた空間で、主にベッドやデスク、収納などを設置する。この家は、階段を有効活用し、コンパクトながらも快適な生活空間を実現している。

4 収納
収納は、1階と2階の間に設けられた空間で、主にベッドやデスク、収納などを設置する。この家は、収納を有効活用し、コンパクトながらも快適な生活空間を実現している。

5 洗面
洗面は、1階と2階の間に設けられた空間で、主にベッドやデスク、収納などを設置する。この家は、洗面を有効活用し、コンパクトながらも快適な生活空間を実現している。

6 脱衣
脱衣は、1階と2階の間に設けられた空間で、主にベッドやデスク、収納などを設置する。この家は、脱衣を有効活用し、コンパクトながらも快適な生活空間を実現している。

7 浴室
浴室は、1階と2階の間に設けられた空間で、主にベッドやデスク、収納などを設置する。この家は、浴室を有効活用し、コンパクトながらも快適な生活空間を実現している。

8 トイレ
トイレは、1階と2階の間に設けられた空間で、主にベッドやデスク、収納などを設置する。この家は、トイレを有効活用し、コンパクトながらも快適な生活空間を実現している。

9 玄関
玄関は、1階と2階の間に設けられた空間で、主にベッドやデスク、収納などを設置する。この家は、玄関を有効活用し、コンパクトながらも快適な生活空間を実現している。

10 庭
庭は、1階と2階の間に設けられた空間で、主にベッドやデスク、収納などを設置する。この家は、庭を有効活用し、コンパクトながらも快適な生活空間を実現している。

<1 班> 学生の感想

M2 M さん

本年度は、与えられた予算の中でいかに自分たちがやりたいこと、アイデアを実現させるかを考えながら、取捨選択をし、完成できたことが一番の学びになりました。一人暮らしを経験したからこそ出てくるアイデア、学生ならではのアイデアがたくさん盛り込まれた部屋が完成し、無事に入居者が決まり、ほんとに安心しました。また、オーナー様が大変喜ばれ、「他の部屋でもやりたい」と生の声を聞くことができ、プロジェクトが成功に繋がりました、大変嬉しく思います。

M1 O さん

今回は限られた予算の中で既存の部屋を改修するという、前年とはまた違った内容のプロジェクトに関わることができたのが、良い経験になりました。二つのグループの提案のいいところ取りをしていったため、より良い提案が出来たのではないかと思います。県立大学と奈良女子大学が近いので、男女どちらでも入居できるような壁の色や、ロフトの階段を利点としてどう生かすかを考えるのが難しかったです。実際完成した部屋を見学させてもらおうと、イメージしていた通りの男女どちらでも入居してもらえる部屋にできあがっていたので、ほっとしました。また、ハード面の改修だけでなく、私たちが買い物をしてキッチンの収納を設置したりライトを置いたりなど、暮らしの部分の提案まで出来たのが嬉しかったです。

4 回生 O さん

まずは自由にアイデアを出させていただき、そのアイデアには現実的には厳しいものもありましたが、マサキの方々が、部屋の利用者に近い学生だからこそ思いつく、業界に馴染んでいる人からは出てこないアイデアだと褒めてくださったことが嬉しかったです。自分たちの提案が紙の上の案で終わるのではなく、実際に物理的な形の成果として現れるため、今までにない達成感を味わうことができました。

4 回生 O さん

はじめに見学した際、部屋のある場所が 1 階で道を歩いている人からも覗けるという状況、ジメジメとしている点などで部屋自体のマイナスの要素が多いと感じた。今回の提案ではマイナスの要素をカバーするというよりも、新しく魅力的な要素を入れるということに力を入れられたと思う。ロフトの階段下の棚やロフトの机などで、魅力的な要素があ部屋に詰めることができた。これはあの部屋の強みになると思う。提案が実現した部屋をみたとき、達成感を感じた。

<2 班> 学生の感想

M2 K さん

今回のプロジェクトでは、今あるお部屋のリノベーションで、どうしたら入居者に満足して貰えるのかを考えました。予算の中で、現実的でありながら、他にはない学生だからこそできる提案を出すことが非常に難しかったです。デザイン性も重要ですが、この空間で

どんな風に生活するのか、どんな風に暮らしてほしいのかを考えた結果、お部屋の特徴であるロフトを活かした机や階段といったアイデアが出てきました。実際にそれを形にしてもらえたことがとても嬉しく、達成感を得られました。暮らしを良くする上で、自分たちにできることを考える、とても良い勉強になりました。

M2 Tさん

私は今回で3回目となるマサキプロジェクトに参加し、一番印象的だったのが階段の収納と踏面幅の拡張です。元々の階段は蹴上幅に対する踏面幅がとても短く、昇り降りが急なものでした。今回の提案ではそんな階段を「今ある状態を残しながら」、いかに使いやすくするかという点からアイデアが生まれました。何もないところから新しいものを発想することは簡単ですが、「今ある状態を残しながら」何かを新しく組み込むことは難しく、提案した階段が仕上がった時は達成感を味わいました。

4回生 Hさん

たくさんのカタログを見ながら壁紙を選んだりイメージ図を描いたりするのが楽しかったです。予算内で収めるために、ペンダントライトへの付替えや台所水栓の変更などを諦めるのが辛かったです。しかしロフトの机や階段下の棚が実現したのがとてもうれしく、良い経験になりました。最後にコンセントカバーやテーブルライト、観葉植物などの小物で細かいところまでデザインできて、達成感がありました。

4回生 Sさん

実際に物件を見に行き、実現するかどうかに関わらず自由に学生目線のアイデアを出すのが楽しかった。特に、ロフトの階段を改善するアイデアや、ロフトの手すりにテーブルをつけるアイデアが実際に形になって、再現度の高さに感動した。自分のアイデアが形になるという経験はなかなかすることができないと思うので、今回のプロジェクトに参加することができて本当に良かった。

(3) 県南部東部小中学生への学習支援事業

①第8回野迫川村奈良女塾（令和元年8月26日（月）から8月30日（金）の5日間）

奈良女子大学野迫川村交流センター（奈良女子大学のサテライト教育施設）において、COC+事業地域実践教育の一環として第8回野迫川村奈良女子大学塾が開催された。奈良女子大学ではCOC+事業開始以降、春休みと夏休みの機会を捉えて、日頃、高校生や大学生に接する機会のない野迫川村の小中学生に向けて学習サポートや大学生とのふれあいを通じて将来の進路を考えるきっかけとなるよう野迫川村奈良女子大学塾を開講している。今回の参加者は小学生6人、中学生1人の7人で、本学からは9人の学生が交代で村に入り、5日間にわたって子どもたちへの様々な学習サポートを行った。午前中は読書の他、英語、国語、算数、社会など夏休みの課題学習の補助を行い、午後は、サテライト施設のある旧野迫川中学校の模型製作やおやつづくり、体育館でのドッジボール大会等の運動、パソコン教室を活用した操作学習などの活動を実施した。また、授業の合間には、大学生が子供たちに自らの経験を語るにより、将来の高校生活・大学生活、自分の未来を考えるきっかけづくりも行った。

村には高校がないため、中学校を卒業した子どもたちは進学のために地域を離れざるを得ず、年齢の近い身近な大人がいないことから、奈良女子大学塾の取組は、地域の保護者や小中学校の先生方、村の教育委員会からも高い評価を頂いており、次年度以降の継続的な実施に強い期待が寄せられている。



地元小中学生への学習補助、支援活動の様子

②第3回奈良県下市町下市小、中学生への学習支援

(令和元年8月19日(月)から21日(水)までの3日間)

奈良女子大学下市アクティビティセンター(奈良女子大学のサテライト教育施設)にて奈良女子大学の学生による学習支援事業が実施された。

この学習支援事業は、平成28年度に奈良県が募集した「県内大学生が創る奈良の未来事業」において、本学学生提案による「女子大塾～女子大生による県南部学習支援～」が入賞し、平成29年度より事業化されたもので、県による2年間の予算サポート終了後も奈良女子大学と下市町が地元小中学生への学習機会及び大学生との交流機会の積極的な提供を目的として自律的、継続的に実施している。今年度は地元小中学生13人と本学学生6人が、下市アクティビティセンターにて夏季ワーク等の宿題を中心とした学習支援の他、「奈良“まほろば”かるた」大会の実施など地域・地元に着目した社会学習を実施した。本取り組みは、次年度も下市町教育委員会の協力を得て継続する予定となっている。



地元小中学生への学習支援の様子



奈良女子大学下市アクティビティセンター

③令和元年度 奈良県内大学生による学習等支援事業成果報告会

(令和元年 12 月 12 日(水))

奈良商工会議所大ホールにて、奈良県内大学生による学習等支援事業成果報告会が開催された。これは、本学生活環境学部の学生グループがこれまで実施してきた「野迫川村奈良女塾」の実績を基に、平成 28 年度の奈良県「県内大学生が創る奈良の未来事業」政策提案コンペにおいて、優秀賞を受賞した「女子大塾～女子大生による県南部学習支援～」が事業化され、平成 29 年度より 3 年間奈良県事業として実施。令和元年度は、県内 7 市町村の小学校・中学校に奈良女子大学を含む県内 6 大学（奈良女子大学、奈良教育大学、畿央大学、帝塚山大学、天理大学、奈良学園大学）から延べ 140 人の学生がボランティアとして参加し、学習支援やレクリエーション等様々な活動を行った。

今回の学習等支援成果報告会は、事業に携わる支援センターの本学学生 4 人が中心となって運営を行い、関係市町村教育委員会や大学関係者を招いて、今年度の活動事例発表、大学生の指導を受けた小・中学生によるアンケートの結果報告、事業継続に向けた意見交換がなされた後、奈良県教育委員会大山課長から活動学生 35 人に向けて「活動証明書」が授与された。

次年度以降、この学習等支援事業は、各市町村が独自で実施される予定であり、奈良女子大学では、下市町、野迫川村での継続実施の他、要望のある町村に向けてボランティア参加学生を募集していく予定となっている。



事業成果報告会の様子



活動証明書を授与された学生

(4) 第4回鹿と木 マルシェの開催

(令和元年 12 年 7 日(土))

『鹿と木 マルシェ』は、COC+関連科目である「キャリアデザイン・ゼミナール B(52) 奈良の木 造形演習」の受講学生の成果発表の場として、奈良の木の魅力を地域の方や本科目を受講していない学生に伝えることを目的に誕生したイベントである。学生たちは、COC+事業協働自治体である十津川村特産の杉と檜で創った木工品製造用素材を用いた商品づくりから、イベント名やロゴの考案、広報、会場デザインを企画してきた。

4 回目の開催となったマルシェ当日は、地域の幼稚園の親子連れから年配の方まで幅広い年齢層の方が来場し、参加者は木の素材に触れながら、まつぼっくりツリー、鍋敷き、箸、カッティングボード、アクセサリなど、思い思いに作品づくりを楽しんだ。完成した作品は、「鹿と木 マルシェ」の焼印を押したり、ラッピングすることもでき、参加者からは「クリスマス用の素敵な飾りができて楽しかった」、「木の温かみを感じた」、「このカッティングボードを明日から使用したい」など大変好評であった。

学生たちは、木の素材を知り木のある暮らしへの理解を深めるための体験と実践を通じた学習を通して、作る楽しさや喜びを他の人々と共有し、主体的に地域の課題解決に関わる力を身につけることが出来た。



鹿と木 マルシェ



(5) 奈良経済同友会との交流・懇談会

(令和2年1月20日(月))

奈良経済同友会との交流・懇談会を開催し、両機関から約80人が参加した。本会は、奈良経済同友会と本学との連携を深め、地域の活性化に一層貢献することを目的に平成18年度より実施しており今回で14回目の実施となる。

場 所 奈良女子大学理学部 G 棟 2 階 G201 教室

懇談会：奈良女子大学文学系 S 棟 1 階ラウンジ

15:00 開 会 開会挨拶 奈良経済同友会代表幹事 北 義彦 氏
奈良女子大学長 今岡 春樹

15:10

○奈良女子大学 (15:10～16:25)

講演 大和・紀伊半島地域の観光開発に向けて－奈良県南部の歴史的の魅力と価値－

【全体説明】奈良女子大学 研究院人文科学系 教授 西谷地 晴美

「ニホンオオカミの絶滅」をめぐって

博士後期課程1回生 渡邊 瑞穂

「天誅組と十津川郷からみる明治維新」をめぐって

博士後期課程3回生 平野 明香里

○奈良経済同友会 (16:40～17:20)

講演 「ホテル業界の課題と奈良の観光について」

ホテル日航奈良 総支配人 真柳 宏二 氏

17:30 閉 会



北代表幹事の挨拶



今岡学長の挨拶



会場の様子

1) 奈良女子大学ならびに奈良経済同友会会員企業による講演

奈良女子大学からは、「大和・紀伊半島地域の観光開発に向けて－奈良県南部の歴史的の魅力と価値－」を演題として、研究院人文科学系 西谷地教授から全体の説明がなされた後、博士学生2人により、オオカミと人とのつながりから紀伊山地の奥深さを論じた「ニホンオオカミの絶滅」、天誅組と十津川郷の軌跡から明治維新の思想を考える「天誅組と十津川郷からみる明治維新」の演目にて研究発表がなされた。続いて、奈良経済同友会会員であるホテル日航奈良の真柳総支配人から「ホテル業界の課題と奈良の観光について」の題目でご講演頂いた。



博士学生の発表



ホテル日航奈良総支配人
真柳氏の講演

交流会参加者に対して、令和元年度「なら学+（プラス）」の授業で課したレポート「奈良への提案」で一次審査を通過したプラン 22 件を紹介し、コメントをいただいた。



No.	ジャンル	奈良への提案プラン名	概要	投票してください
1	観光	奈良の滞在時間延長を目指す宿泊者増加プラン	修学旅行生をターゲットにオンライン奈良の体験型宿泊プランを提供する	
2	観光	何度も来たいと思える奈良にするには	従業員向けに、接客の向上マナーを徹底させることにより新観客、リピーター客を増やす	
3	観光	ものづくり体験を通して奈良の魅力を活用しよう！	モノづくり体験の中で最新技術の一端に触れることにより奈良の技術の魅力発信を行う	
4	観光	昼の街、奈良！～奈良公園セントラルパーク化計画～	奈良公園を散歩、ジョギング、読書・食事、イベント場所として、観光客だけでなく県民も楽しめる場所にする	
5	観光	「奈良」に「シカ」のない夜よ！～宿泊者アップ大作戦～	ホテルで奈良に関するセミナー、観光地でマッピング、商店街にて体験イベントを実施し、宿泊者の増加を図る	
6	観光	「武」で輝く奈良	刀剣コンベンションにしたゲームとのコラボ、「若菜」を中心に観光客を引き込む	
7	観光	なみあみだっ！お参り奈良ツアー	日本のアニメ文化と仏教文化を融合したコンテンツツアーリズムを県内企業とタイアップして実施する	
8	観光	修学旅行の続きを、奈良で。	奈良の魅力は修学旅行では分からない。2度目の修学旅行を企画し、奈良ファン、宿泊者の増加を図る	
9	観光	バラエティーのある宿泊施設へ	奈良の景観、食・産業を生かした宿泊施設と予約システムの提案(グランセア、イベント密着、スガークラウド)	
10	観光	移動中に学ぶ、シカの餌やり	車内アナウンスの活用による奈良観光の主張である鹿への思いやりとサポート	
11	観光	Let's & play LARPLive Action Role-Playing Game) in Nara！！ 休日こそ、アクティブに過ごそう！！	若い世代の観光客を取り込むための奈良を舞台とした体験型ゲームの提案	
12	観光	デートにピッタリドキドキな旅	十束川村のつり橋、明日香村の生活体験等ドキドキする体験プログラムを提供	
13	福祉	あおぞら親下屋さん	奈良特産の靴下を、奈良公園でのイベントにより発信する	
14	特産物	奈良にしかない薬局、心療(こころ)堂	チェーン店ではなく、道旁漢、特産物を取り入れた健康食品など奈良にだけ込んだ薬局を展開する	
15	農林業	大和野菜を全国へ！野菜お届けネット宅配便	奈良の食材の通販WEBサイトを立ち上げ、奈良の農業の活性化を図る	
16	社会生活	奈良県の企業を身近に感じよう	県内の中学生・高校生を対象に、「むさずみプラス」のような授業を実施し、県内就職の活性化を図る	
17	社会生活	都会っ子の感性や自立精神を養いに！奈良の魅力たっぷりの村に留学してみよう！	山村習字会体は増しくはないが、奈良独自の体験内容にして感性を育むと共に山村の人口減少をストップさせる	
18	社会生活	若者雇用プログラム ～若者が住みやすい奈良市にするために～	フタヤ、ユニクロ、GUがJR東鉄奈良駅前にないようでは若者を惹き止めることが出来ない	
19	社会生活	奈良をぐみの町にする。ごみ回収プロジェクト	奈良まち、奈良公園などで、ボランティア、アルバイトによりごみゼロをめざすプロジェクト	
20	社会生活	未来の奈良で暮らし、奈良で生きるためのテレワーク	テレワークの推進による働きやすい環境づくりの提案	
21	女性活躍	働きたいけど働けない…とは言わせない！ママの就業応援システム	子育てと仕事(短時間・フルタイム)の両立を目指す応援プログラム	
22	その他	奈良へのふるさと納税で思い出作り！体験型プラン	贈礼品に特産品ではなく奈良独自の体験型プログラムを提供する例(イチョノ森＝いちご狩り・フルンツリ)	

— 94 —

2. 4 今後の取り組みについて（COC+事業終了後の活動予定）

奈良女子大学においては、COC+事業期間中、教育カリキュラム改革と各種就職支援行事の実施を通じて学生が奈良県への興味関心を高め、自身の就職先として奈良県を選択してもらえるような事業に取り組んできた。

COC+事業終了後の令和2年度（2020年度）以降においても、地域志向教育と県内就職支援活動を連動させながら、さらなる発展に向けて、県内企業や自治体とのネットワークをフルに活用・拡充し、若者にとって魅力ある地域の創生に高等教育機関として、より一層貢献していく予定である。

事業成果の継続とさらなる発展に向けて



地域志向教育と就職支援の連動



(1) 教育支援活動

地域への理解、地方創生意識の涵養に欠かせない地域志向科目を引き続き実施していく。

学生の地域理解を深めるための「『奈良』女子大学入門」、地域社会の抱える課題を見つけ働き方を考える「なら学+（プラス）」の継続開講の他、アントレプレナー科目としてキャリア教育科目キャリアデザイン・ゼミナール C(5)「『ビジネスプラン』の作り方～アイデアだけでは終わらせない～」についても引き続き開講する。また、より実践的な人材育成を目的とした体験型学習プログラムとして奈良県南部に設置したサテライト施設については引き続き PBL 授業での活用を予定している。また、これらの地域志向科目の実施に当たっては、奈良県のほか県内企業から経営者や実務家を招聘し、学生と企業の相互理解を深め、地域が必要としている人材養成教育、女性キャリア教育の深化を図る。なお、地域志向科目の質的向上を目指すため、授業評価アンケート等に基づいた授業内容の見直しについても社会連携センター、大和・紀伊半島学研究所といった学内組織とともに連携し引き続き検討していく。

(2) 就職支援活動

1) 県内インターンシップの拡充

インターンシップは学生にとって、働く姿を見ることで、社会人としての基礎力を養い、地元企業への就職の橋渡しにもなることから、学生・県内企業双方にメリットのあるインターンシップのあり方を探りながら、県内企業向けインターンシップの拡充を行う。

2) 県内企業業界研究会、OG との交流会の充実

学内にて県内企業、県内自治体に限定した業界研究会（セミナー）、県内企業に就職している OG との交流会を開催し、学生の地元定着支援を進める。

3) 県内企業（自治体）見学会の実施

県内企業の魅力や知識を学生に知ってもらうため奈良県ならびに奈良経済同友会等のコストシェアの下、バス等による県内企業見学会の実施を予定している。学生に地域産業・地域経済に対する理解、地元企業の魅力を深めさせるとともに、学生と県内企業との距離を縮めることを目的としている。

4) 本学卒業生への県内再就職支援

奈良県雇用政策との連携により、既卒者の採用ニーズが高い県内企業への I ターン、U ターン OG への再就職支援に引き続き取り組んでいく。

(3) 成果の社会的還元

COC+事業で構築された県内企業、県内自治体とのネットワークの充実をはかるとともに、学生との交流、産学連携プロジェクトの推進、共同研究など奈良県経済団体との連携を深め、個別ニーズに応じたマッチングを強化し、新たな社会的価値の創造に努める。